

舞鶴市 人権に関する市民意識調査
結果報告書

令和 3 年 3 月

舞 鶴 市

目次

① 調査の概要	1
② 調査結果のまとめ.....	3
③ 調査結果.....	7
本調査における回答者の属性（問 28～問 30）	7
1 人権の尊重についての認識（問 1）	9
2 人権侵害（問 2～問 4）	32
3 人権問題一般（問 5～問 6）	41
4 子どもの人権（問 7～問 8）	50
5 高齢者の人権（問 9～問 10）	54
6 障害のある人の人権（問 11～問 12）	58
7 同和問題（部落差別）（問 13～問 14）	62
8 外国人の人権（問 15～問 16）	70
9 インターネット上での人権侵害等（問 17～問 18）	75
10 性的少数者（LGBT 等）の人権（問 19～問 20）	79
11 人権に関する考え（問 21～問 22）	84
12 舞鶴市が実施する人権啓発（問 23～問 24）	106
13 市民交流センター（問 25～問 27）	112
14 回答者の属性と舞鶴市の人権施策について思うこと	122
④調査票	

① 調査の概要

1 調査の目的

本市では、令和3年度に『舞鶴市人権教育・啓発推進計画』が終了することから、更なる施策の充実を図るための新しい計画の策定を予定しています。本調査は、その基礎調査として、市民の皆さんのお考えや現状を調べることを目的に実施しました。

2 調査設計

調査対象者

令和2年9月11日現在、舞鶴市に住んでいる18歳以上の市民から2,000人を無作為に抽出

調査期間

令和2年10月19日～11月6日

調査方法

- ・調査票による本人記入方式
- ・郵送配布・郵送回収による郵送調査法

3 回収結果

調査対象者（配布数）	有効回収数	有効回収率
2,000	900	45.0%

4 報告書の見方

- この報告書は、調査の概要、調査結果のまとめ、調査結果、調査票の4部から構成されています。
- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文とグラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「N (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。
- 設問によっては、結果を詳細に分析するため、クロス集計表を掲載しています。
- 前回調査（平成19年度）については、「人権問題についての市民意識調査 集計結果報告書」（平成21年3月）から参照しています。
- 本報告書では「不明・無回答」も含めたデータを用いています。ただし、「2019年度 人権に関する意識調査」のデータは「不明・無回答」を除いたものであるため、比較の際には令和2年度舞鶴市調査のデータも「不明・無回答」を除いたものを用いています。

② 調査結果のまとめ

本調査は、14個の分野と50個の問から構成されています。

分野	問
1 人権の尊重についての認識	問1 (1)～(11) 様々な人権課題における人権尊重の程度
2 人権侵害	問2 過去5年間における人権侵害の経験
	問3 侵害されたと感じた人権の内容
	問4 人権が侵害されたと感じたときにとった対応
3 人権問題一般	問5 人権問題に関する相談窓口として知っているもの
	問6 (1)～(2) 人権を取り巻く舞鶴市の状況
4 子どもの人権	問7 子どもの人権に関して特に問題があると思うこと
	問8 子どもの人権を守るために特に必要だと思うこと
5 高齢者の人権	問9 高齢者の人権に関して特に問題があると思うこと
	問10 高齢者の人権を守るために特に必要だと思うこと
6 障害のある人の人権	問11 障害のある人の人権に関して特に問題があると思うこと
	問12 障害のある人の人権を守るために特に必要だと思うこと
7 同和問題 (部落差別)	問13 部落差別の現状についての認識
	問14 部落差別が現在も存在している原因
8 外国人の人権	問15 外国人の人権に関して特に問題があると思うこと
	問16 外国人の人権を守るために特に必要だと思うこと
9 インターネット上での人権侵害等	問17 インターネット上での人権侵害に関して特に問題があると思うこと
	問18 インターネット上での人権侵害の解決に特に必要だと思うこと
10 性的少数者(LGBT等)の人権問題	問19 性的少数者(LGBT等)の人権に関して特に問題があると思うこと
	問20 性的少数者(LGBT等)の人権を守るために特に必要だと思うこと

11 人権に関する考え	問 21 (1)～(5) 子どもの結婚相手の属性について
	問 22 (1)～(5) 新たな感染症に関する意見について
12 舞鶴市が実施する 人権啓発	問 23 舞鶴市の人権啓発事業の中で知っているもの
	問 24 人権問題や人権課題の解決に向けて効果的だと思うこと
13 市民交流センター	問 25 市民交流センターの認知度
	問 26 市民交流センターの利用経験
	問 27 市民交流センターについて知っていること
14 回答者の属性	問 28 回答者の性別
	問 29 回答者の年齢
	問 30 回答者の舞鶴市における居住歴
	問 31 舞鶴市の人権施策について思うこと

本調査における回答者の属性（問 28～問 30）

回答者の男女比を見ると、女性が占める割合の方が高く、52.9%となっています。回答者の年齢は 60 歳代の占める割合が 22.8%と最も高く、60 歳代と 70 歳以上が 37.8%を占めています。舞鶴市における居住歴については、「30 年以上」が 61.7%と最も高く、居住歴が 10 年以上の回答者が全体の 87.4%を占めています。

Ⅰ 人権侵害の状況と侵害されたときの対応（問 2～問 5）

過去 5 年間に人権が侵害されたと感じたことがない回答者は 78.2%であり、平成 19 年度調査と比較すると 4.5 ポイント上昇しています。一方、過去 5 年間に人権が侵害されたと感じたことがある回答者が挙げている侵害の具体的な内容としては「名誉や信用などの侵害」と「パワーハラスメント」、「プライバシーの侵害」の割合が 20%台前半から 30%台後半と高くなっています。また、人権問題に関する相談窓口として認識されている主なものは無料法律相談と人権啓発推進課、警察署ですが、実際に侵害されたと感じた回答者の対応として割合が高いのは「だまって我慢した」と「友達など信頼できる身近な人に相談した」となっています。

II 様々な人権課題（問1・問7～問12・問15～問16・問19～問21）

女性と子ども、高齢者、障害のある人の人権については「尊重されている」と「どちらか」というと尊重されている」の割合が50.0%以上となっています。一方、感染症患者の人権については「あまり尊重されていない」と「尊重されていない」の割合が50.0%以上となっています。また、アイヌの人々の人権が尊重されているかどうかについては「わからない」の割合が50.0%以上となっています。

III 同和問題（部落差別）（問13～問14）

部落差別が現在もあるかどうかについては、性別や年齢、居住歴に関わらず「わからない」の割合が最も高くなっています。「わからない」を除くと、「部落差別はまだある」と認識している回答者の割合は、50歳代と60歳代、居住歴20年以上で比較的高くなっています。

IV インターネット上での人権（問17～問18）

インターネット上での人権に関することについては、他人への誹謗中傷や、匿名であることによる無責任な発言が人権上特に問題があるとして認識されています。また、50歳代以上の回答者については、SNSを通じた犯罪誘発の可能性を問題視している割合が高くなっています。

このような問題の解決に必要なこととしては、監視や規制の体制、法整備の充実や、プロバイダ等への書き込み等削除の要請など人権を侵害している側に対する取締りが主な回答となっています。

V 新たな感染症と人権（問 22）

新たな感染症に関する 5 個の意見について、どの程度そう思うかを尋ねた結果については、次のようにまとめられます。近隣に感染者が出た場合には、感染者を特定しようとするのは仕方がないですが、行政が感染者の情報を公開するべきかどうかについてはどちらともいえないという認識になっています。ただし、感染者を特定しようとするのは仕方がないことであっても、差別的な扱いや言動は許されず、行政は正しい知識の普及に努めるべきであると認識されています。しかし、社会全体の利益を優先して規制を強化することの必要性については、強く認識されているとは言えないという結果になっています。

VI 舞鶴市が実施する人権啓発についての考え（問 23～問 24）

舞鶴市が実施している人権啓発事業のうち認識されているものは、広報まいづるやホームページでの啓発が中心です。ただし、6 個の選択肢の内どれも知らない回答者も約 30.0% となっており、特に若年層から中年層の回答者についてはその割合が相対的に高くなっています。また、人権問題や人権課題の解決に向けた効果的な取組みについては、教育や研修に関するものの割合が高くなっています。啓発については主体や媒体に関わらず低い割合となっています。

VII 市民交流センター（問 25～問 27）

市民交流センターについては、性別や年齢、居住歴に関わらず「知らない」の割合が最も高く、「知らない」は「知っている」の 1.7 倍となっています。利用経験についても性別や年齢、居住歴に関わらず「利用したことがない」の割合が最も高く、「利用したことがない」は「利用したことがある」の 2.3 倍となっています。また、市民交流センターの機能としては、主に市民対象の講座や事業、部屋の貸出が認識されています。

③ 調査結果

以下では各問について、全体の集計結果を説明します。問によっては、舞鶴市における平成 19 年度調査の結果との比較、国の調査の結果（内閣府による「平成 29 年度人権に関する世論調査」、法務省人権擁護局による「2019 年度 人権に関する意識調査」）との比較も行います。また、回答者の属性によるクロス集計も行います。

本調査における回答者の属性（問 28～問 30）

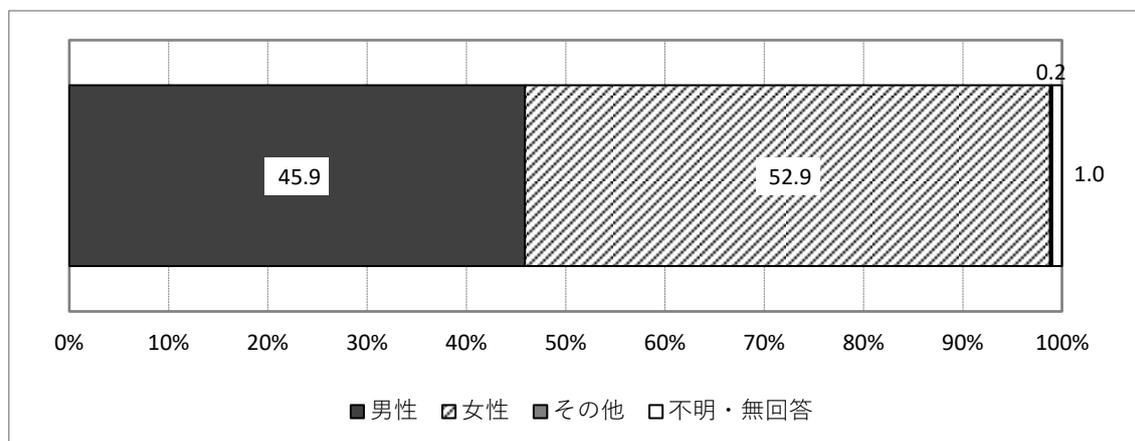
本調査では、性別と年齢、舞鶴市における居住歴という観点から回答者の属性を把握しています。調査票の中では最後の問となっていますが、調査結果を見る上で基本となる情報であるため、本報告書では最初に説明します。

問 28 回答者の性別

単数回答 (N=900)

回答者を性別で分けると、女性の方が男性よりも高い割合を占めています。(図表 1)

図表 1

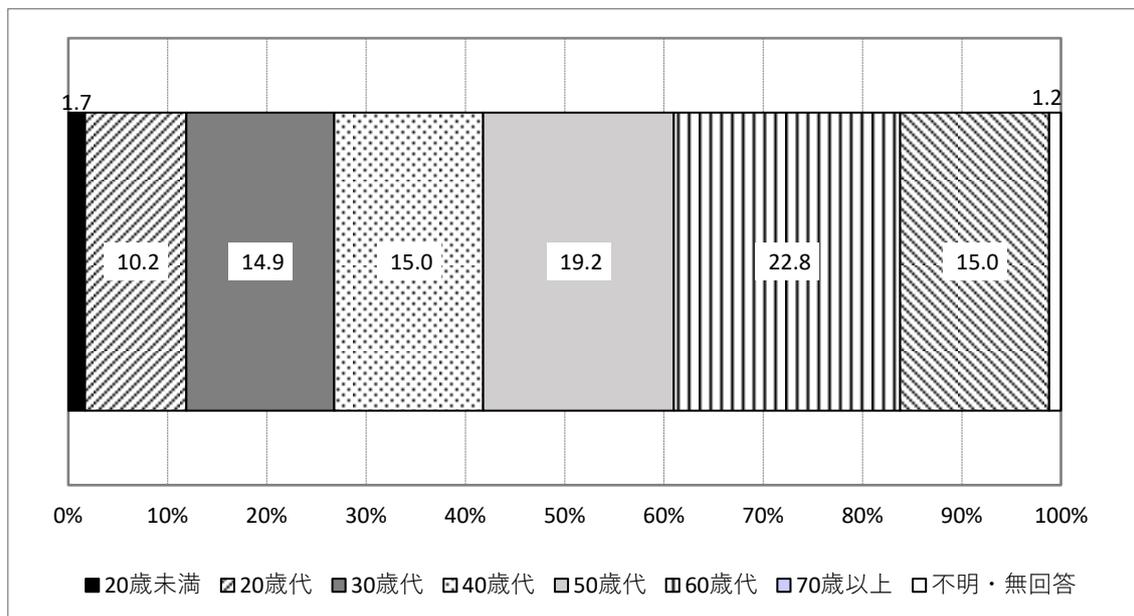


問 29 回答者の年齢

単数回答 (N=900)

回答者の年齢は 60 歳代、50 歳代、70 歳以上、40 歳代の順に割合が高く、50 歳以上が 57.0%を占めています。(図表 2)

図表 2

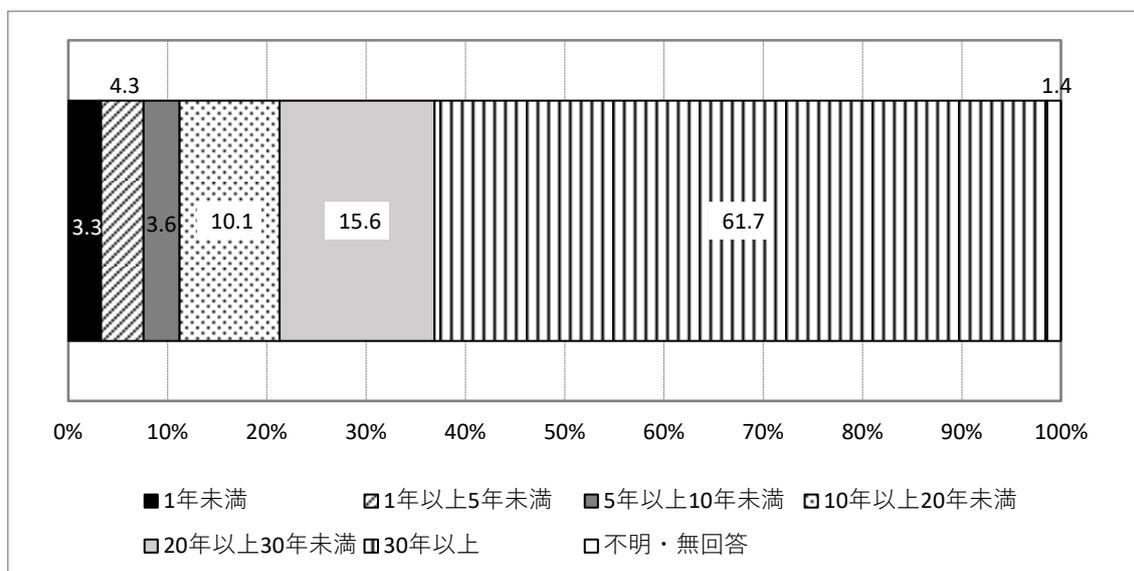


問 30 回答者の舞鶴市における居住歴

単数回答 (N=900)

回答者の舞鶴市における居住歴は、「30年以上」の割合が61.7%と最も高く、次いで「20年以上30年未満」が15.6%、「10年以上20年未満」が10.1%となっています。また、居住歴20年以上の回答者が77.3%を占めています。(図表3)

図表 3



1 人権の尊重についての認識（問1）

1では、様々な人権課題において人権がどの程度尊重されていると思うかを「尊重されている」から「わからない」までの5段階で尋ねています。

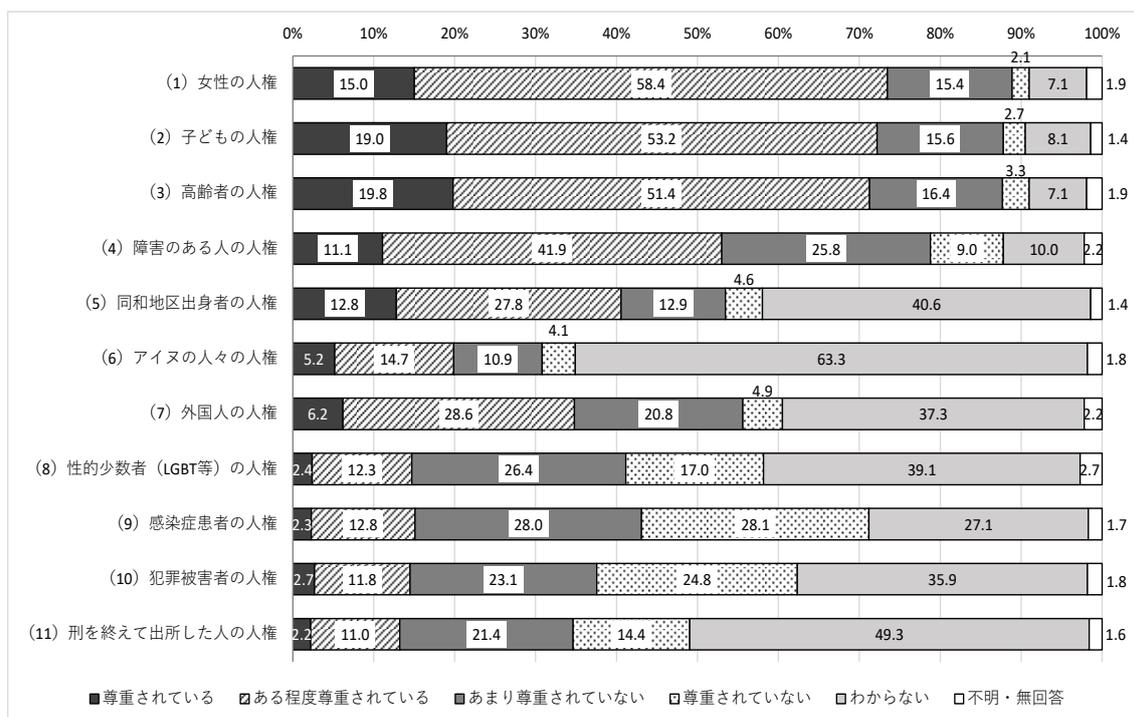
問1（1）～（11） 様々な人権課題における人権尊重の程度

単数回答（N=900）

クロス集計：性別、年齢

単純集計の結果をまとめると図表1-1のようになります。「(1)女性の人権」と「(2)子どもの人権」、「(3)高齢者の人権」については「尊重されている」と「ある程度尊重されている」の合計が70.0%以上となっています。一方、「(8)性的少数者（LGBT等）の人権」と、「(9)感染症患者の人権」、「(10)犯罪被害者の人権」、「(11)刑を終えて出所した人の人権」については「あまり尊重されていない」と「尊重されていない」の合計の占める割合が「尊重されている」と「ある程度尊重されている」の合計の占める割合を上回っています。また、「(5)同和地区出身者の人権」と「(6)アイヌの人々の人権」、「(11)刑を終えて出所した人の人権」については「わからない」の割合が40.0%以上と高くなっています。

図表1-1

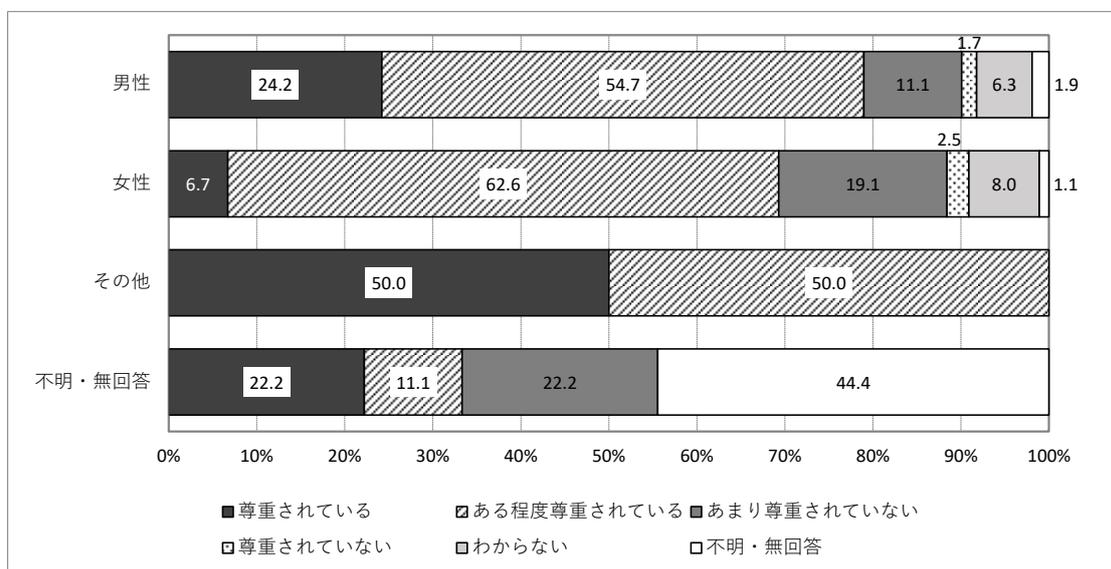


(1) 女性の人権

【性別によるクロス集計】

性別に関わらず「ある程度尊重されている」の割合が50.0%以上と最も高いです。一方、女性に比べると男性の方が「尊重されている」と「ある程度尊重されている」の割合が高くなっています。また、「尊重されている」と「ある程度尊重されている」の合計と「あまり尊重されていない」と「尊重されていない」の合計との差は、男性は66.1ポイント、女性は47.7ポイントとなっています。(図表1-2)

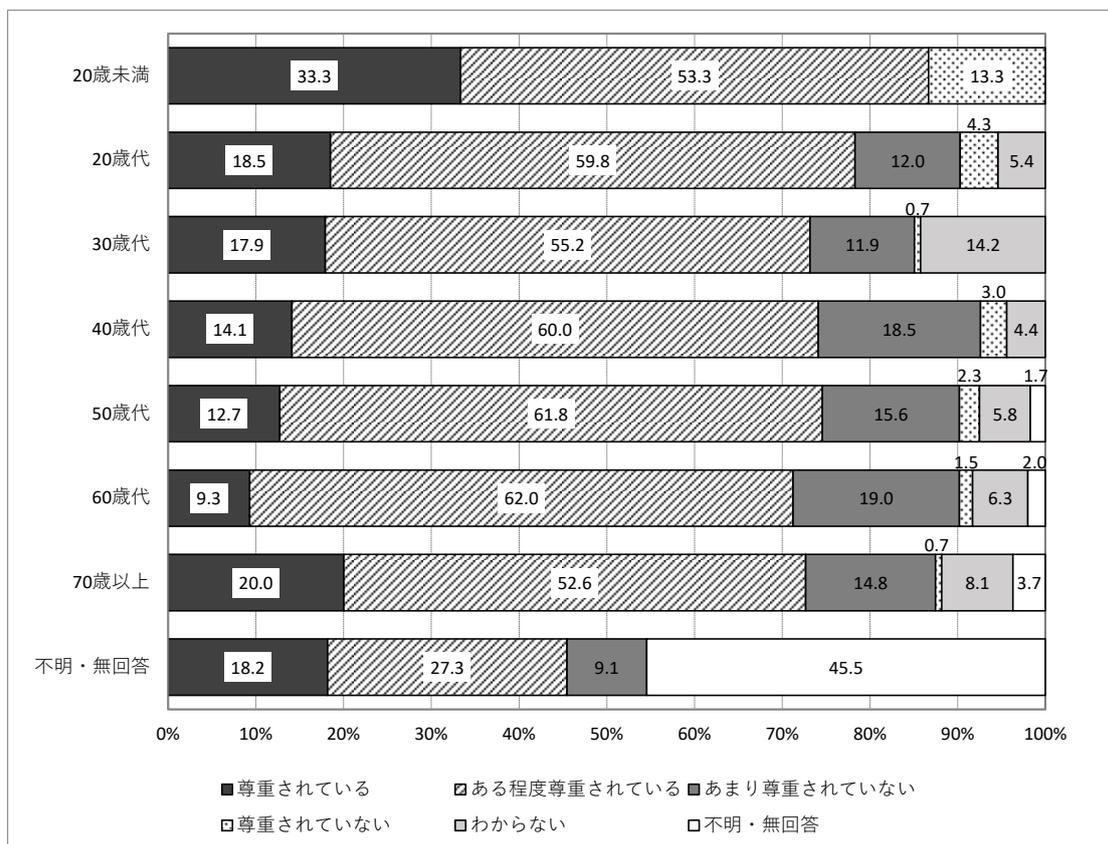
図表1-2



【年齢によるクロス集計】

年齢に関わらず「尊重されている」と「ある程度尊重されている」の合計が70.0%以上となっています。(図表1-3)

図表1-3

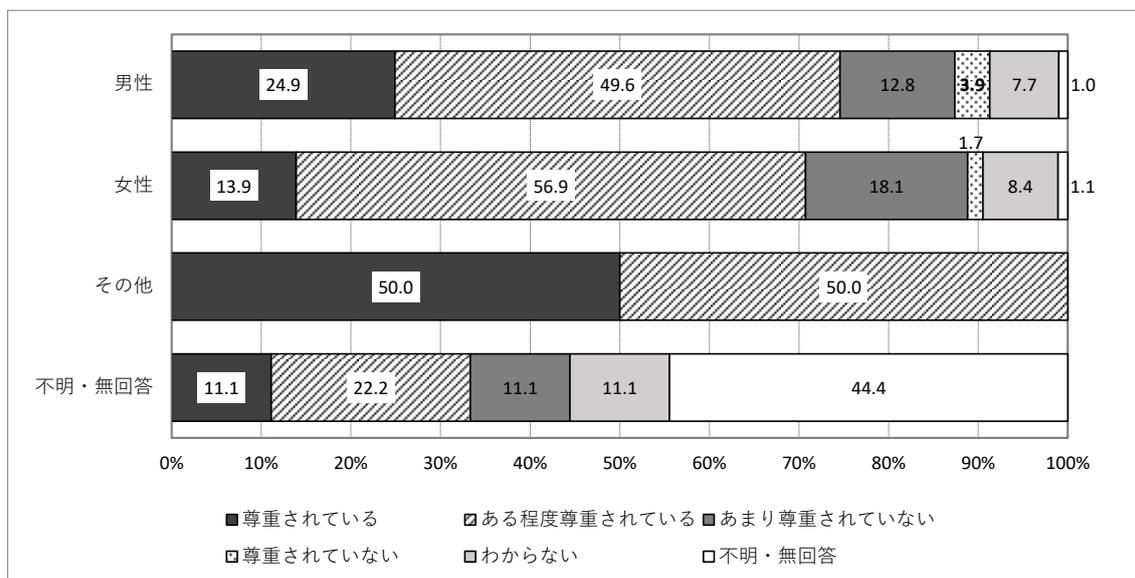


(2) 子どもの人権

【性別によるクロス集計】

性別に関わらず「ある程度尊重されている」の割合が最も高いです。また、「尊重されている」と「ある程度尊重されている」の合計は男女ともに70%台前半となっています。(図表1-4)

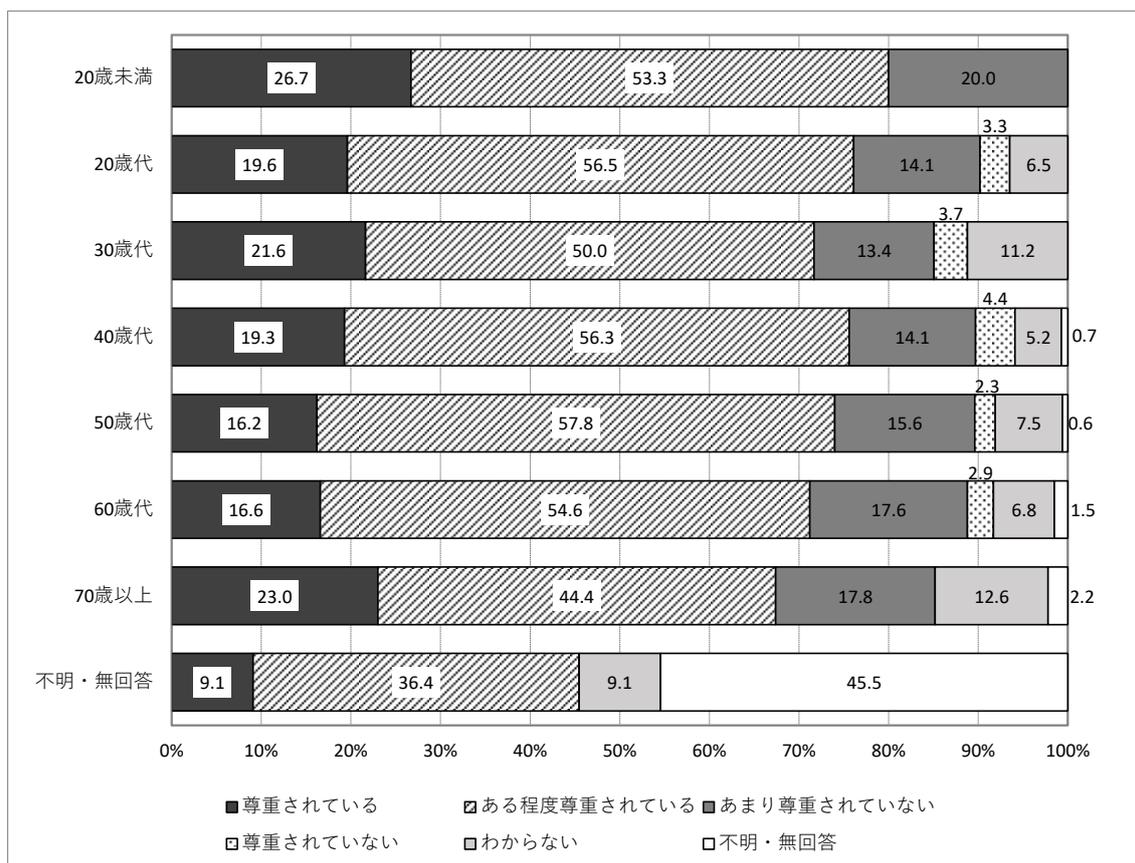
図表1-4



【年齢によるクロス集計】

年齢に関わらず「尊重されている」と「ある程度尊重されている」の合計が65.0%以上となっています。(図表1-5)

図表1-5

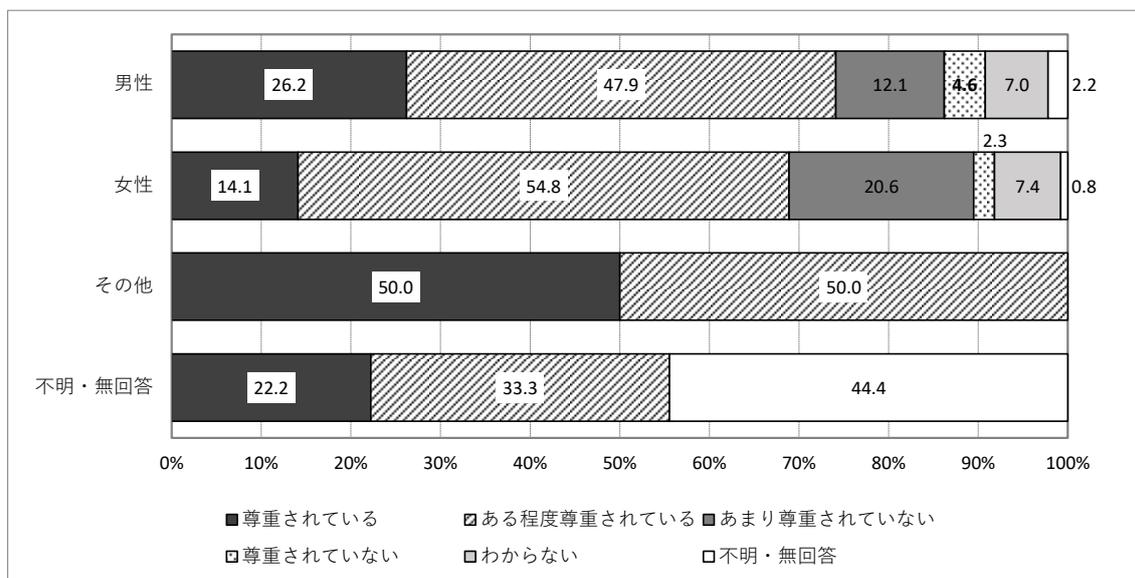


(3) 高齢者の人権

【性別によるクロス集計】

性別に関わらず「ある程度尊重されている」の割合が最も高いです。また、「尊重されている」と「ある程度尊重されている」の合計は男女ともに 70%前後となっています。(図表 1 - 6)

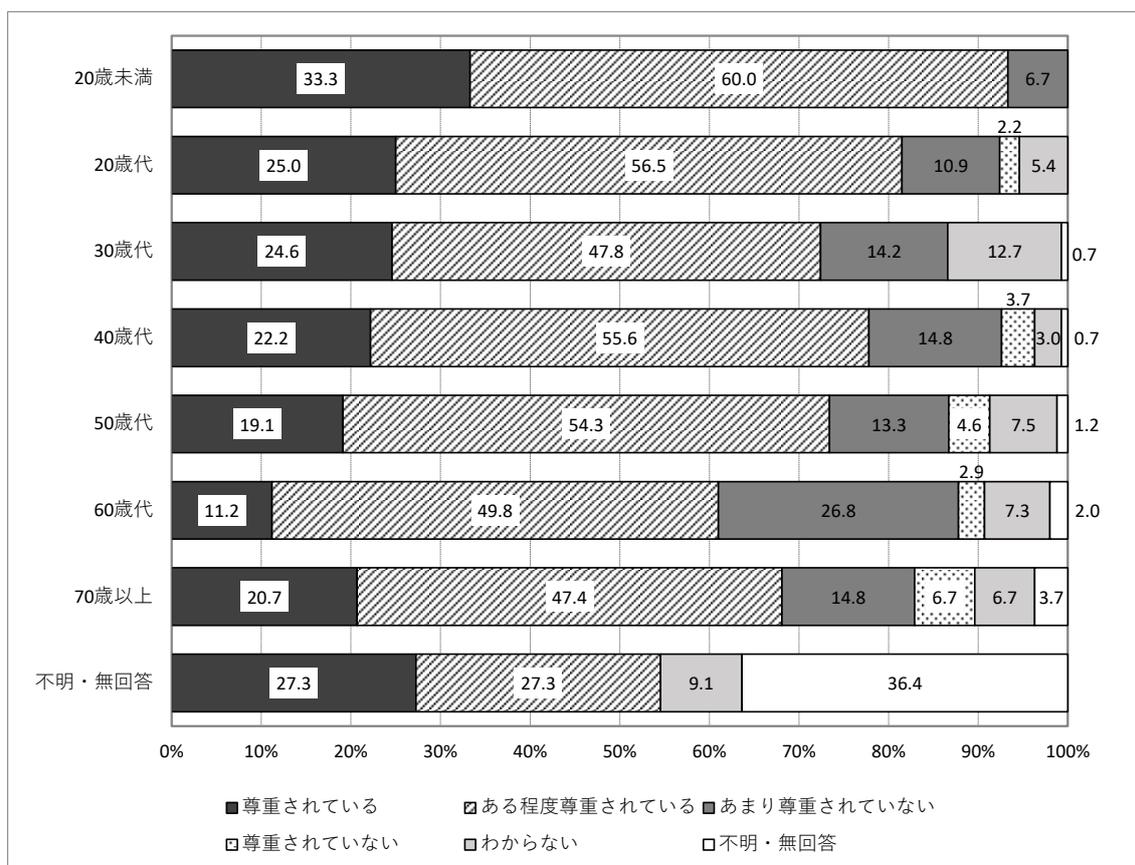
図表 1 - 6



【年齢によるクロス集計】

年齢に関わらず「尊重されている」と「ある程度尊重されている」の合計が60.0%以上となっています。一方、60歳代は他の年齢に比べると「尊重されている」と「ある程度尊重されている」の割合は低く、「どちらかというとも尊重されていない」の割合が高いです。(図表1-7)

図表1-7

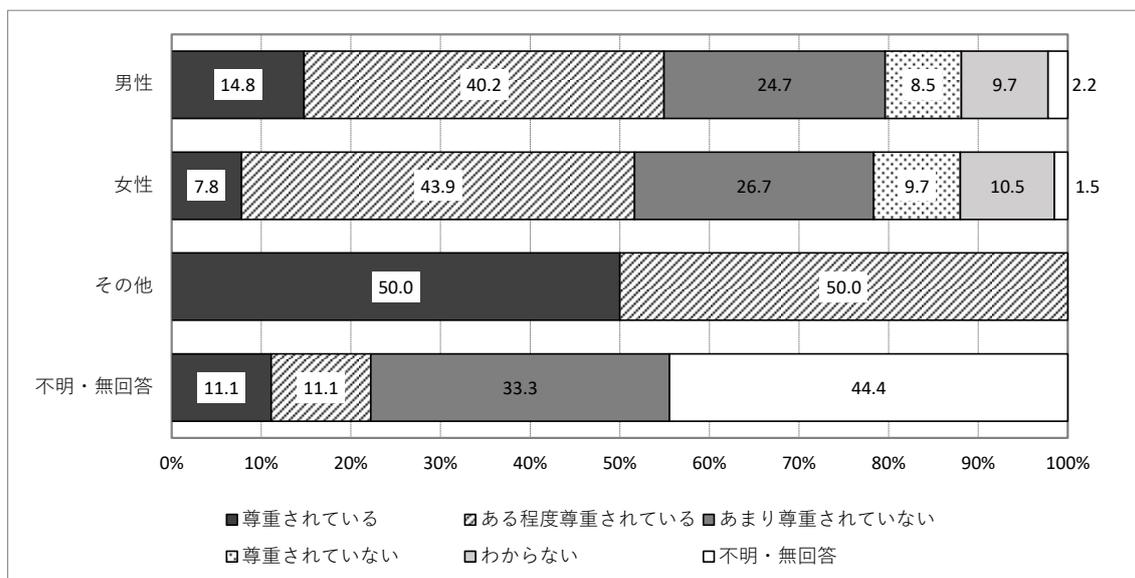


(4) 障害のある人の人権

【性別によるクロス集計】

性別に関わらず「ある程度尊重されている」の割合が40%台前半と最も高いです。一方、男女ともに2番目に高いのは「あまり尊重されていない」であり、「尊重されていない」と合わせると30%台となっています。(図表1-8)

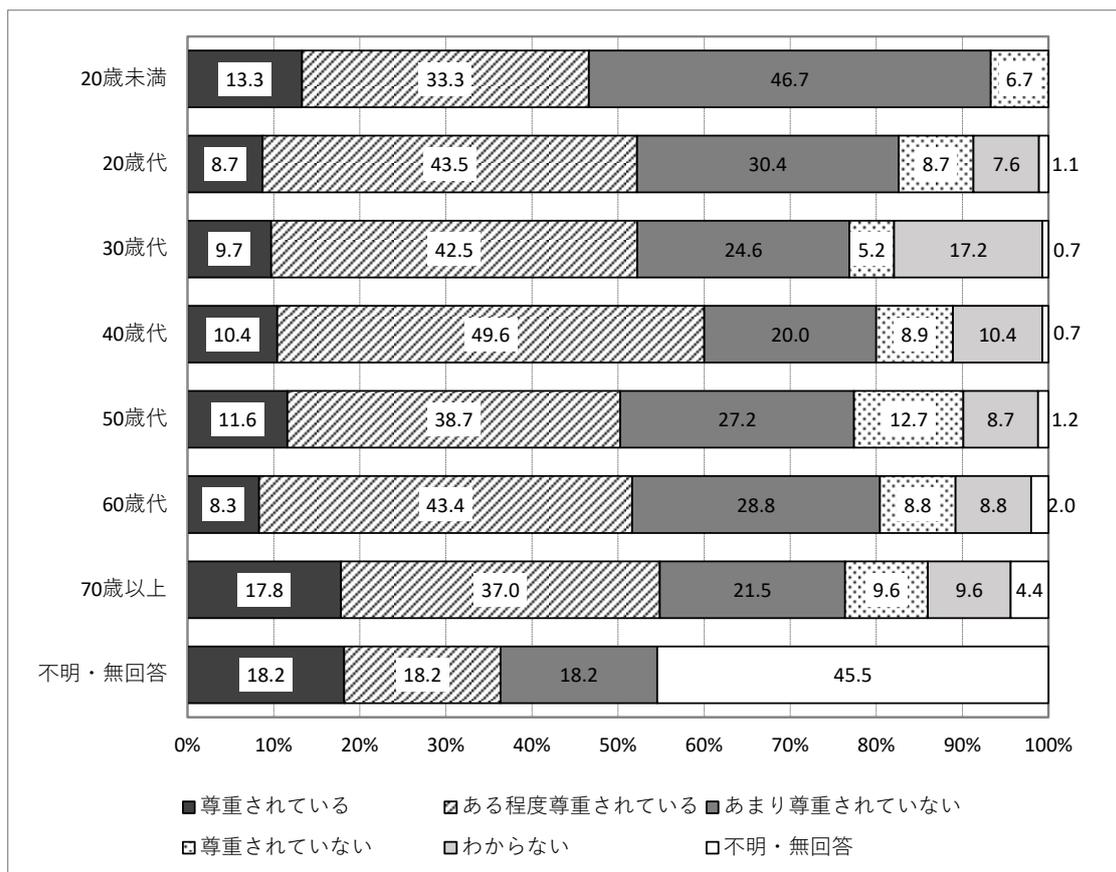
図表1-8



【年齢によるクロス集計】

母数が少ない20歳未満を除き、「尊重されている」と「ある程度尊重されている」の合計が50.0%以上となっています。特に40歳代は、他の年齢に比べると「尊重されている」と「ある程度尊重されている」の割合が高いです。(図表1-9)

図表1-9

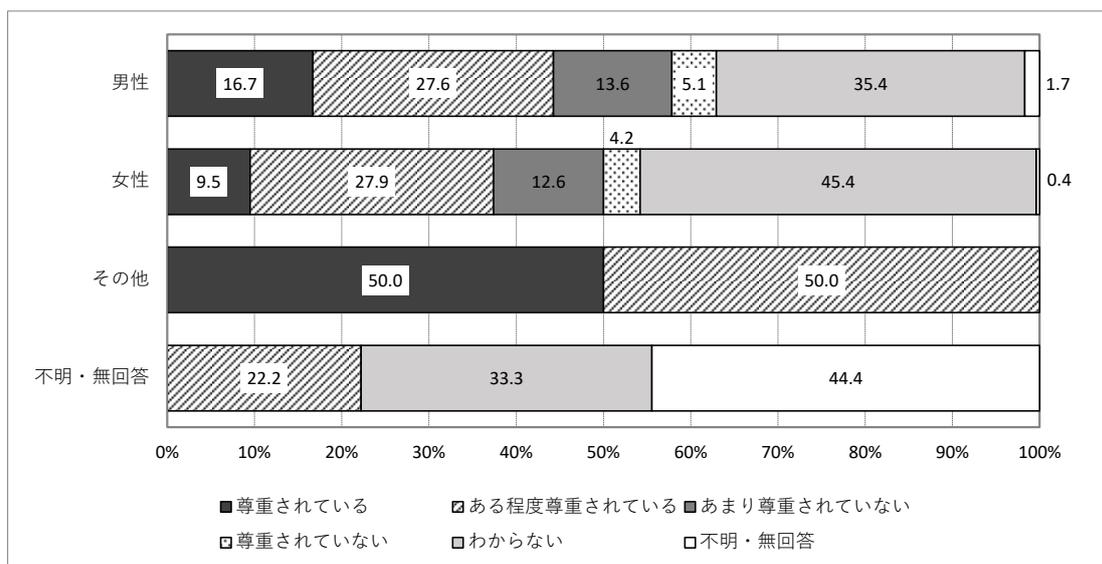


(5) 同和地区出身者の人権

【性別によるクロス集計】

性別に関わらず「わからない」の割合が最も高いです。一方、男女ともに2番目に高いのは「ある程度尊重されている」であり、「尊重されている」と「ある程度尊重されている」を合わせると男性は44.3%、女性は37.4%となっています。(図表1-10)

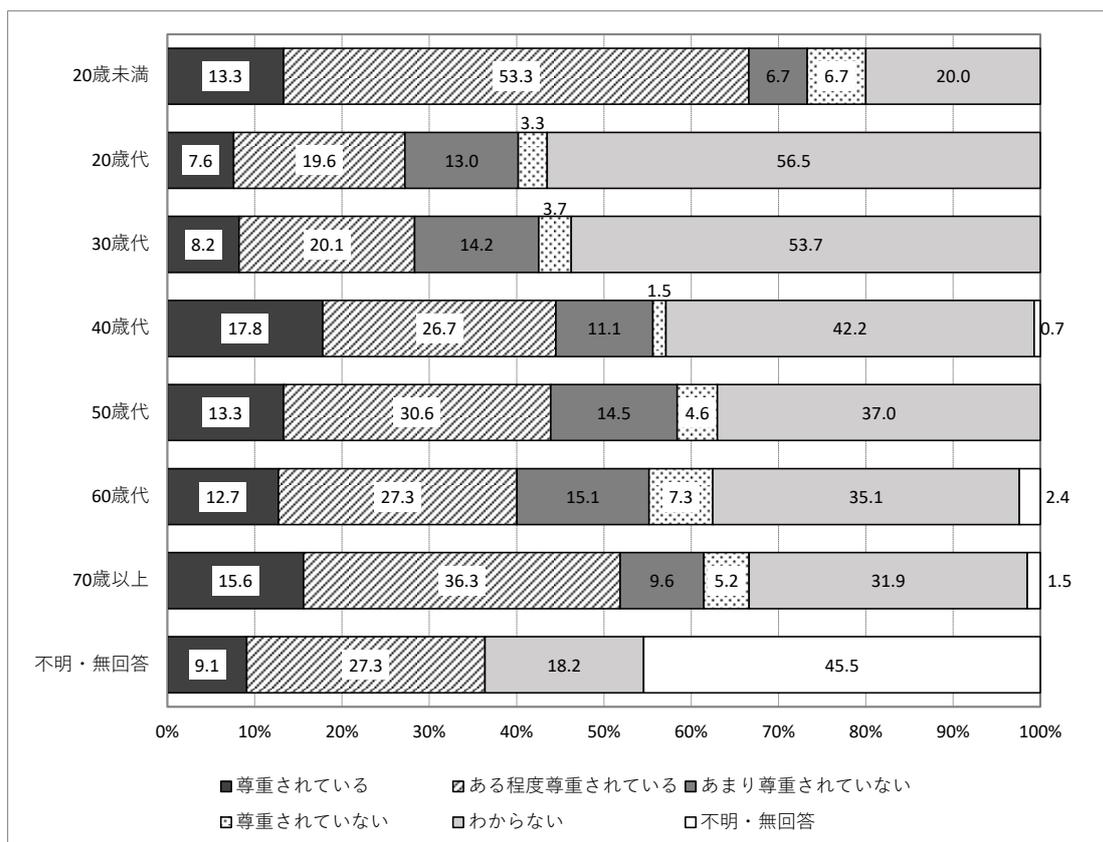
図表1-10



【年齢によるクロス集計】

20歳代と30歳代では「わからない」の割合が50%台となっています。また、母数が少ない20歳未満を除いて「わからない」の割合が最も高いですが、70歳以上では「尊重されている」と「ある程度尊重されている」の合計が他の年齢に比べると高くなっています。(図表1-11)

図表1-11

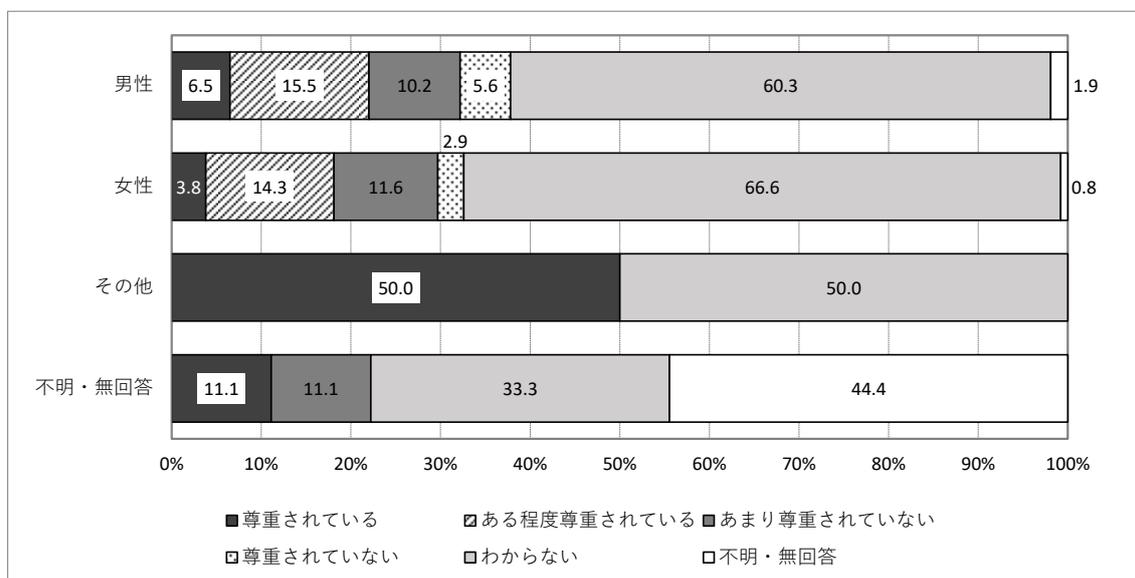


(6) アイヌの人々の人権

【性別によるクロス集計】

性別に関わらず「わからない」の割合が60%台と最も高いです。また、男女ともに「尊重されている」と「ある程度尊重されている」の合計と「あまり尊重されていない」と「尊重されていない」の合計との差が小さく、女性は概ね同程度となっています。(図表1-12)

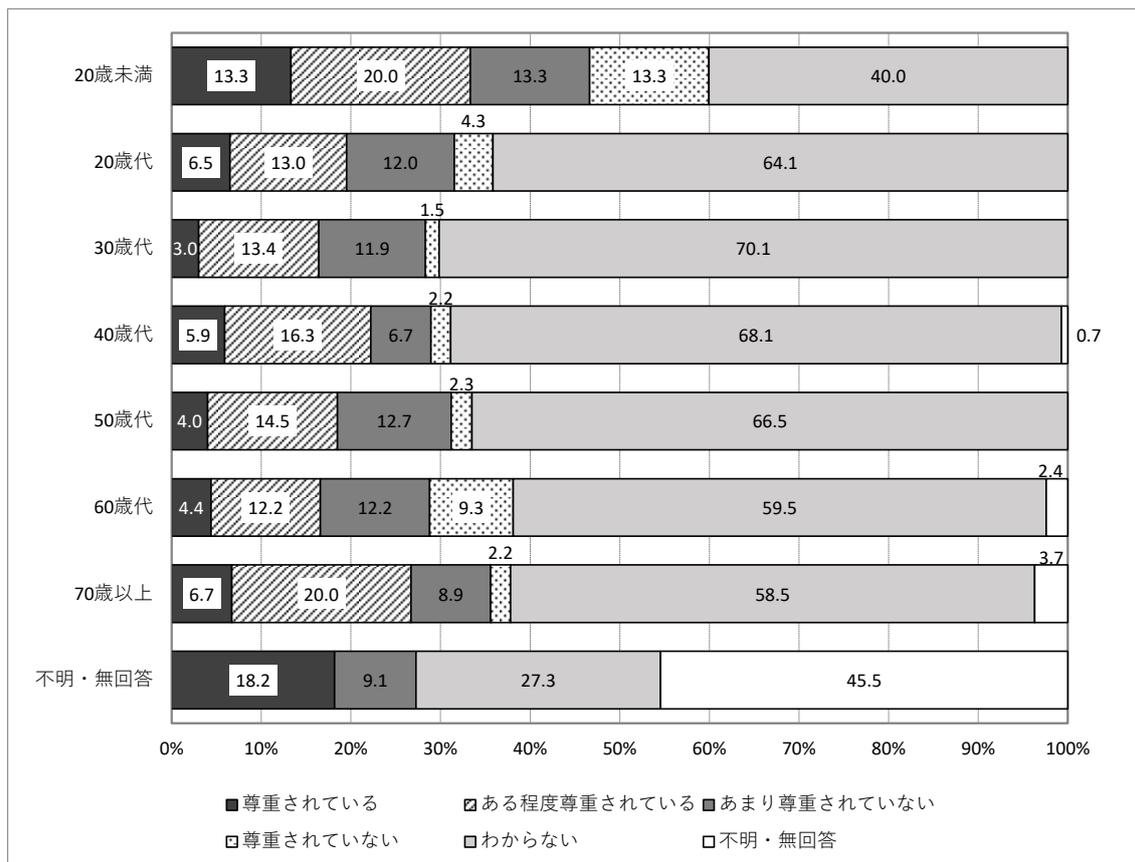
図表1-12



【年齢によるクロス集計】

年齢に関わらず「わからない」の割合が最も高いです。30歳代では70.1%、40歳代と50歳代では60%台後半、60歳代と70歳代では50%台後半となっています。(図表1-13)

図表 1-13

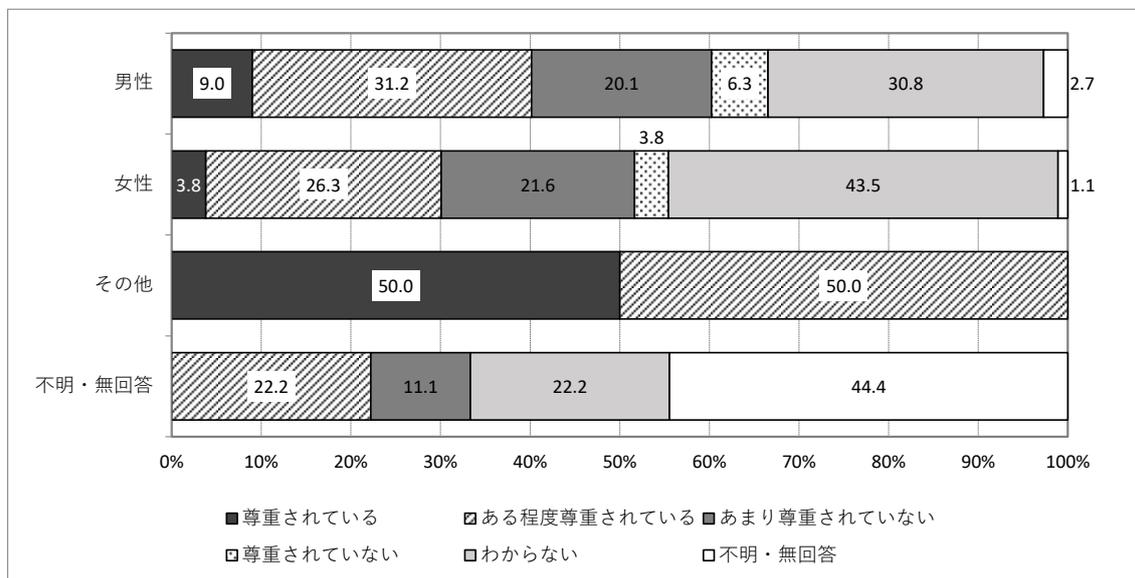


(7) 外国人の人権

【性別によるクロス集計】

男性は「ある程度尊重されている」の割合が 31.2%と最も高く、「尊重されている」と「ある程度尊重されている」の合計は 40.2%となっています。一方、女性は「わからない」の割合が 43.5%と最も高く、「尊重されている」と「ある程度尊重されている」の合計と「あまり尊重されていない」と「尊重されていない」の合計の差が男性に比べると小さいです。(図表 1-14)

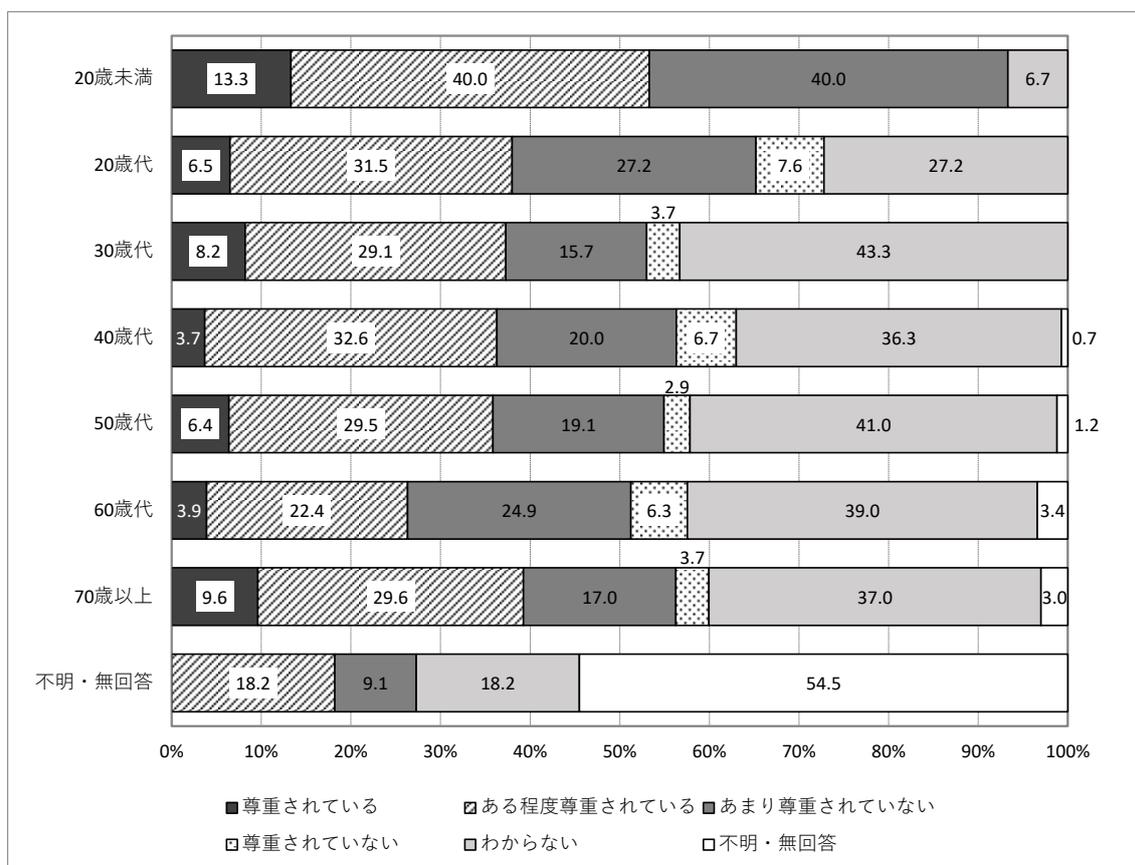
図表 1-14



【年齢によるクロス集計】

20歳代では「ある程度尊重されている」と「あまり尊重されていない」、「わからない」が概ね同程度です。また、20歳代と60歳代では「あまり尊重されていない」の割合が他の年齢に比べると高くなっています。30歳代と50歳代では「わからない」の割合が他の年齢に比べると高くなっています。(図表1-15)

図表1-15

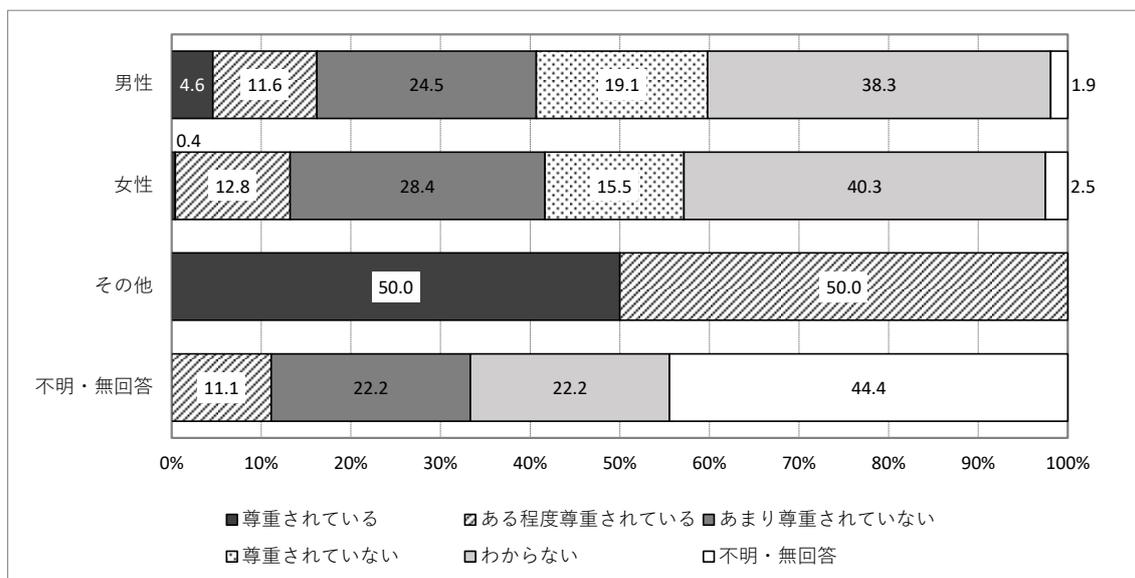


(8) 性的少数者（LGBT等）の人権

【性別によるクロス集計】

性別に関わらず「わからない」の割合が40%前後と最も高いです。一方、男女ともに2番目に高いのは「あまり尊重されていない」であり、「尊重されていない」と合わせると40%台前半となっています。（図表1-16）

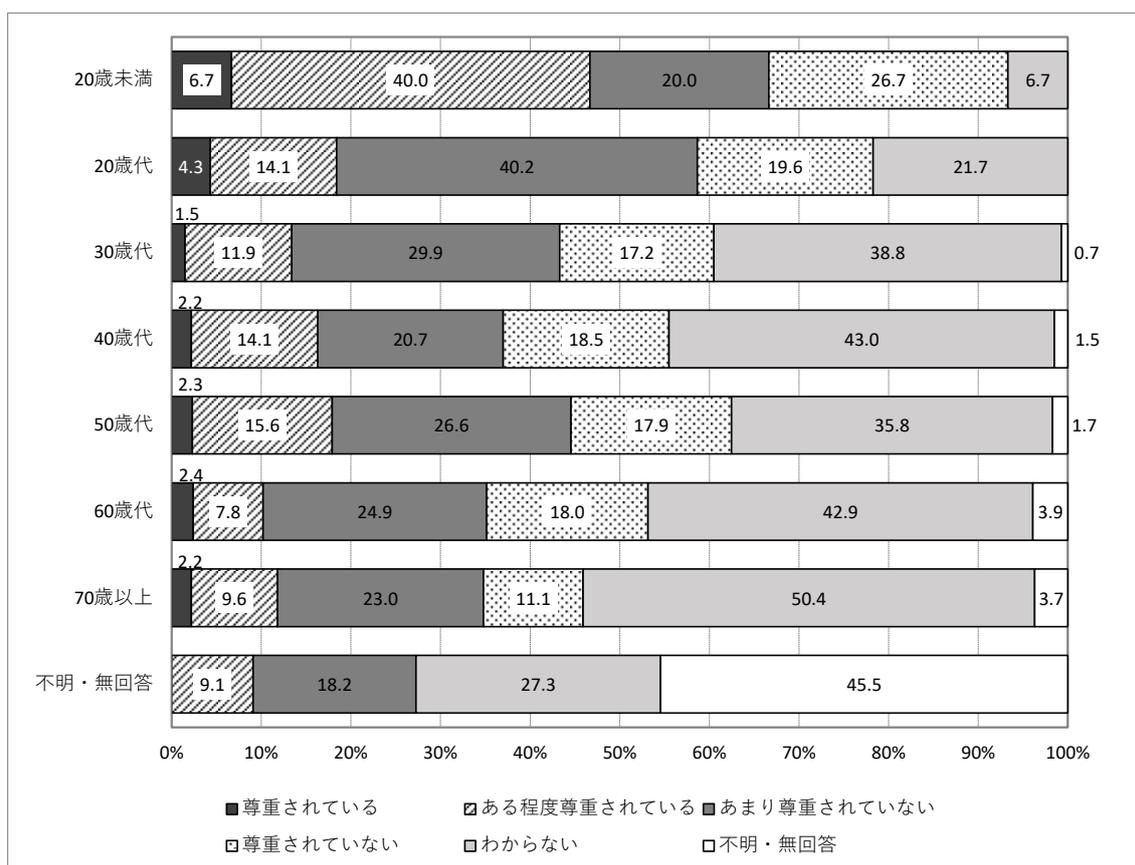
図表1-16



【年齢によるクロス集計】

70歳以上では「わからない」の割合が他の年齢に比べると高いです。また、20歳代では「あまり尊重されていない」の割合が他の年齢に比べると高いです。(図表1-17)

図表1-17

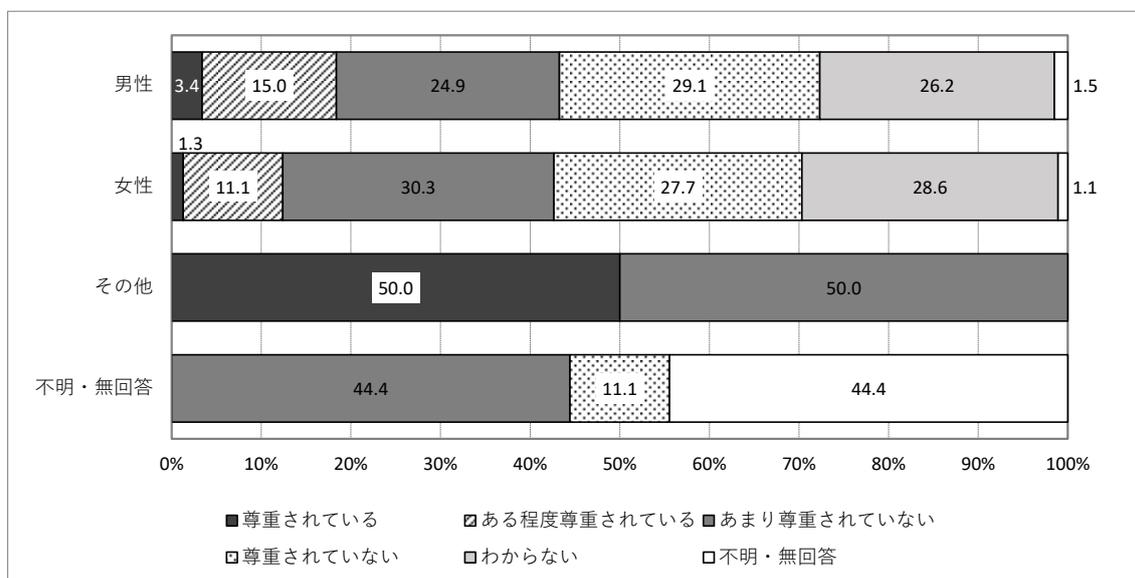


(9) 感染症患者の人権

【性別によるクロス集計】

性別に関わらず「あまり尊重されていない」と「尊重されていない」、「わからない」の割合がそれぞれ20%台後半から30%台前半となっています。一方、「尊重されている」と「ある程度尊重されている」の合計は女性に比べると男性の方が高いです。(図表1-18)

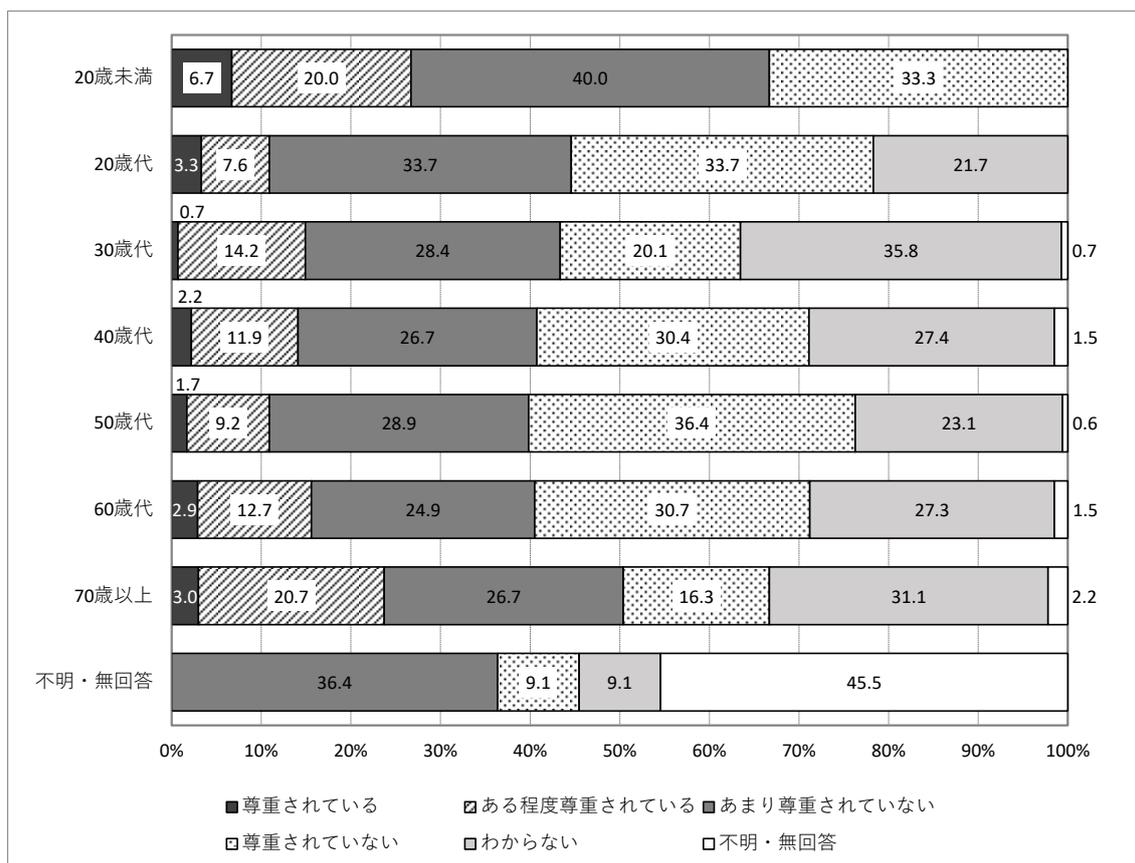
図表1-18



【年齢によるクロス集計】

20歳代では「あまり尊重されていない」、30歳代では「わからない」、50歳代では「尊重されていない」の割合が他の年齢に比べると高いです。(図表1-19)

図表1-19

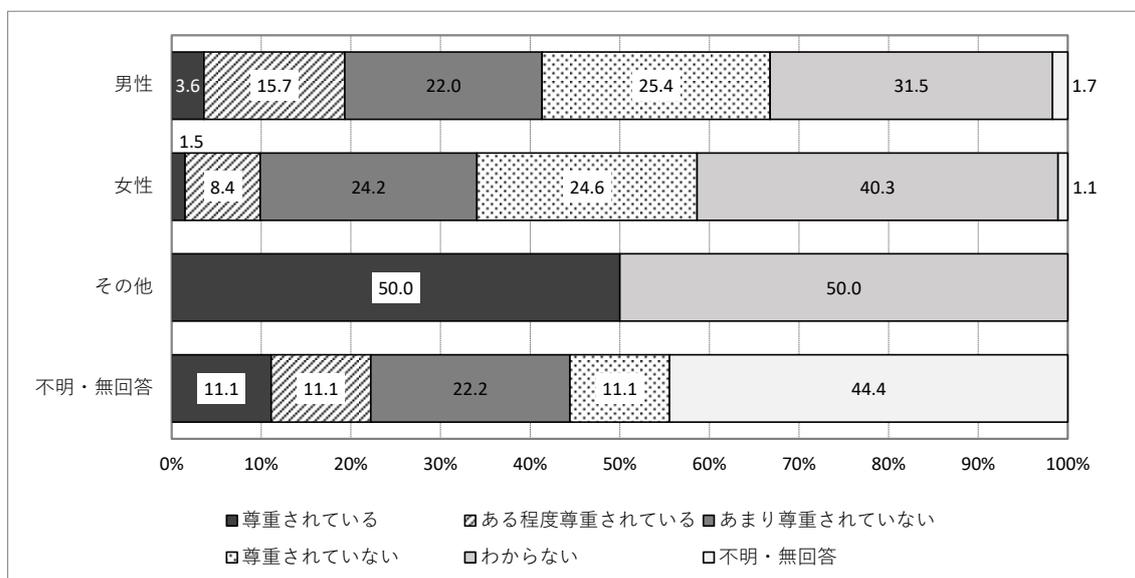


(10) 犯罪被害者の人権

【性別によるクロス集計】

性別に関わらず「わからない」の割合が最も高いですが、男性に比べると女性の方が高いです。また、「尊重されている」と「ある程度尊重されている」の割合の合計は男性の方が高く、「あまり尊重されていない」と「尊重されていない」の割合の合計は女性の方が高いです。(図表1-20)

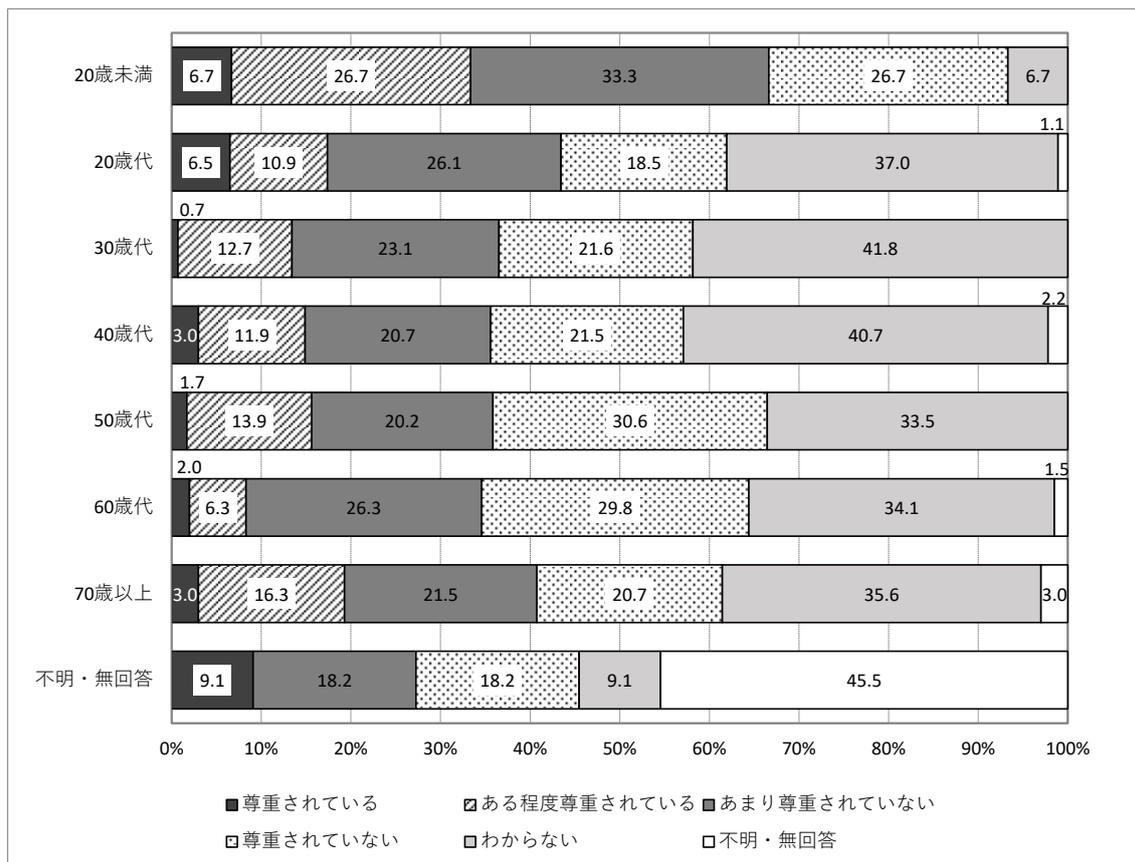
図表1-20



【年齢によるクロス集計】

50 歳代と 60 歳代では「尊重されていない」の割合が他の年齢に比べると高いです。また、30 歳代と 40 歳代では「わからない」の割合が他の年齢に比べると高いです。(図表 1-21)

図表 1-21

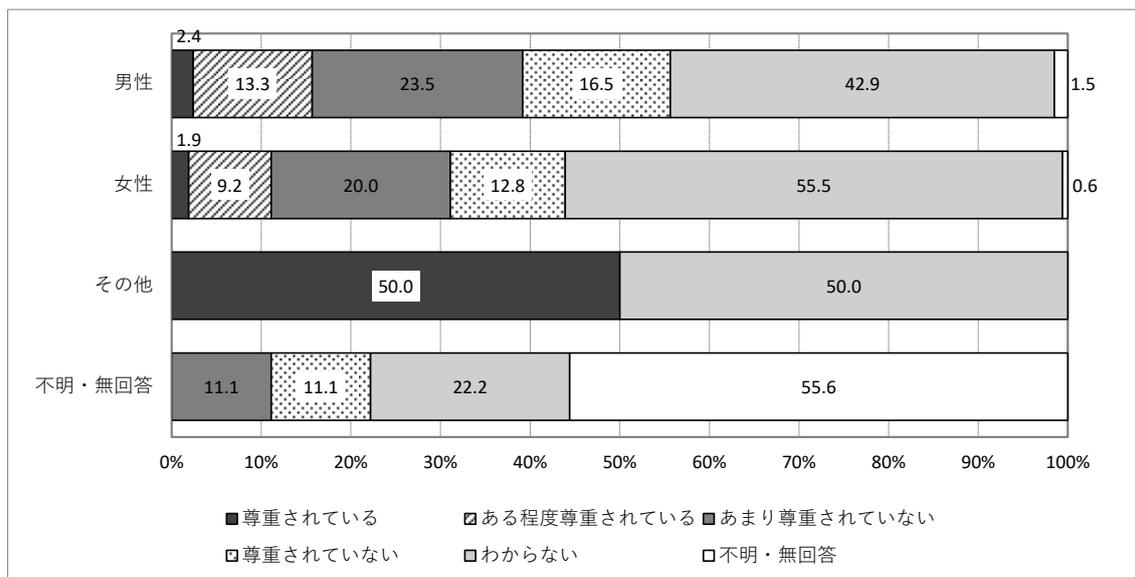


(11) 刑を終えて出所した人の人権

【性別によるクロス集計】

性別に関わらず「わからない」の割合が最も高いです。また、男性に比べると女性の方が「わからない」の割合は高く、50%台半ばとなっています。(図表1-22)

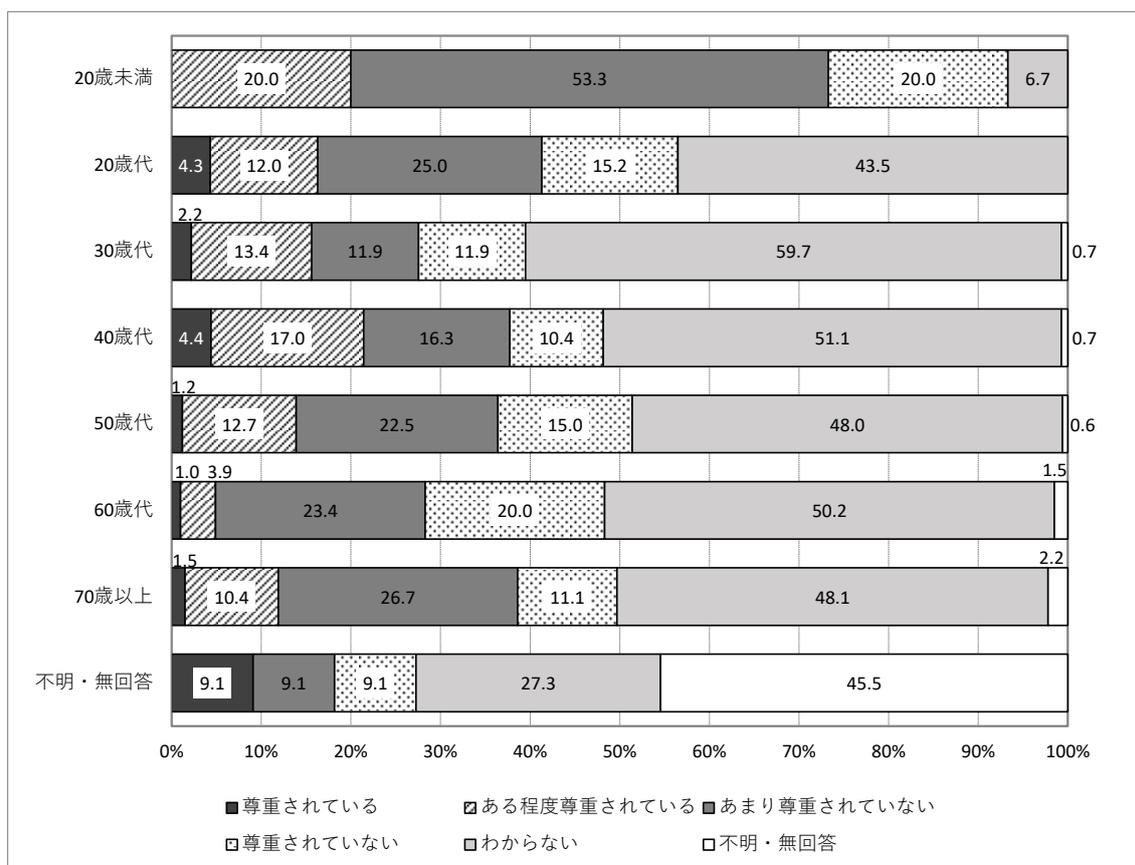
図表1-22



【年齢によるクロス集計】

20歳代と70歳以上では「あまり尊重されていない」の割合が他の年齢に比べると高いです。30歳代と40歳代、60歳代では「わからない」の割合が他の年齢に比べると高いです。また、60歳代では「尊重されていない」の割合も他の年齢に比べると高いです。(図表1-23)

図表1-23



2 人権侵害（問2～問4）

2では、過去5年間を対象として人権が侵害されたと感じた経験をまず尋ねています。次に、侵害されたと感じたことがある回答者を対象に、侵害の内容とその際にとった対応を尋ねています。

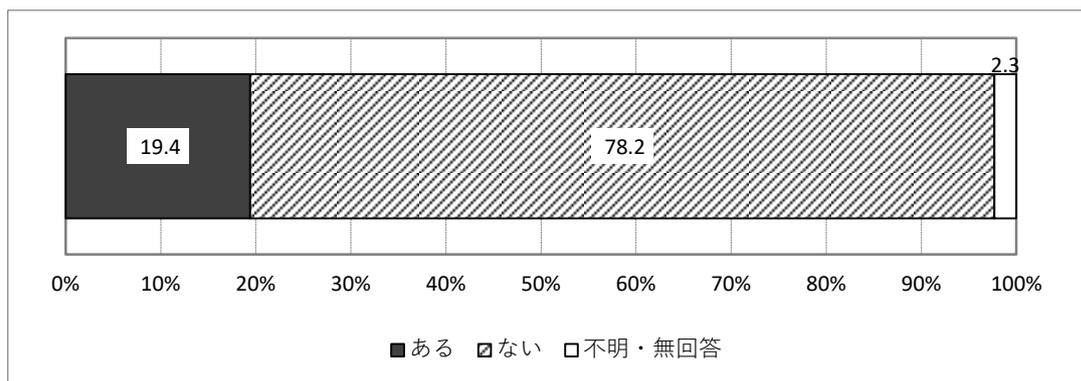
問2 過去5年間における人権侵害の経験

単数回答 (N=900)

比較・クロス集計：平成19年度調査、平成29年度内閣府調査、性別、年齢

過去5年間に人権が侵害されたと感じたことがあるかどうかについては、感じたことがない人の割合が78.2%と高いです。(図表2-1)

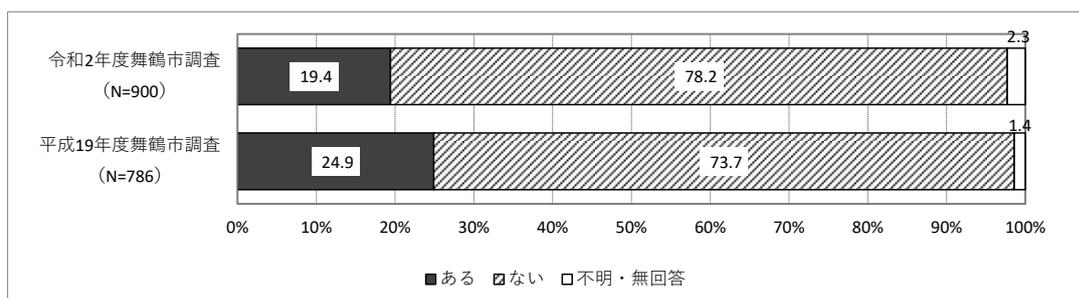
図表2-1



【平成 19 年度調査との比較】

全体的な傾向は同じですが、「ある」は 5.5 ポイント減少し、「ない」は 4.5 ポイント増加しています。ただし、令和 2 年度舞鶴市調査では「過去 5 年間に人権が侵害されたと感じたことがあるかどうか」を尋ねていますが、平成 19 年度舞鶴市調査では「今までに人権が侵害されたと感じたことがあるかどうか」を尋ねています。(図表 2 - 2)

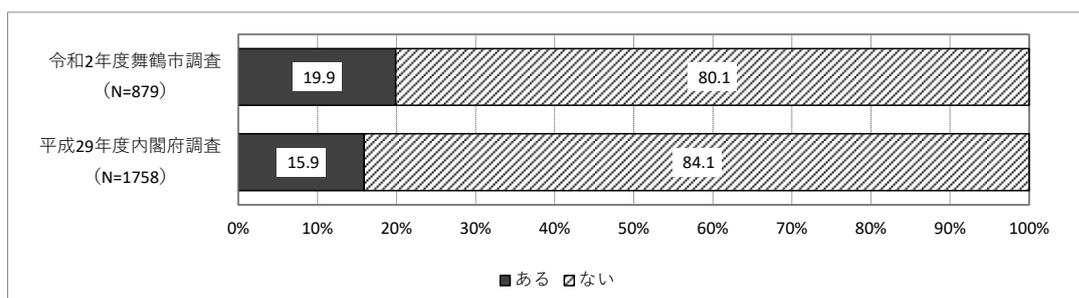
図表 2 - 2



【平成 29 年度内閣府調査との比較】

平成 29 年度に内閣府が実施した「人権擁護に関する世論調査」の結果と比較すると、結果は概ね同様の傾向となっています。ただし、令和 2 年度舞鶴市調査では「過去 5 年間に人権が侵害されたと感じたことがあるかどうか」を尋ねていますが、平成 29 年度内閣府調査では「今までに人権が侵害されたと感じたことがあるかどうか」を尋ねています。(図表 2 - 3)

図表 2 - 3

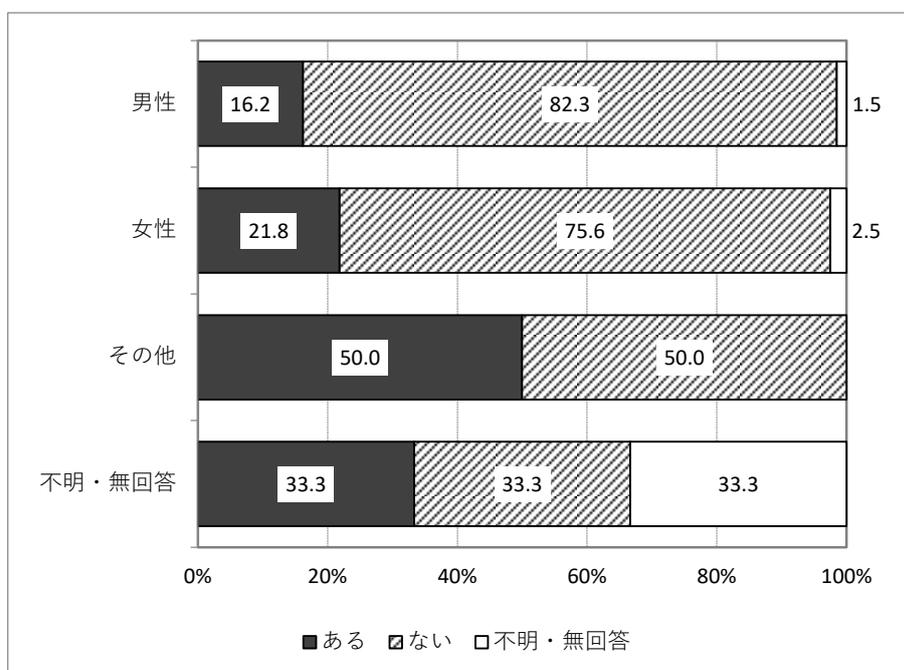


(注 1) 平成 29 年度内閣府調査の結果では「不明・無回答」を除いたデータが使用されているため、令和 2 年度舞鶴市調査のデータも「不明・無回答」を除いたものを使用しています。

【性別によるクロス集計】

性別に関わらず「ない」の割合が70%台後半から80%台前半と高いです。一方、「ある」の割合は男性に比べると女性の方が高くなっています。(図表2-4)

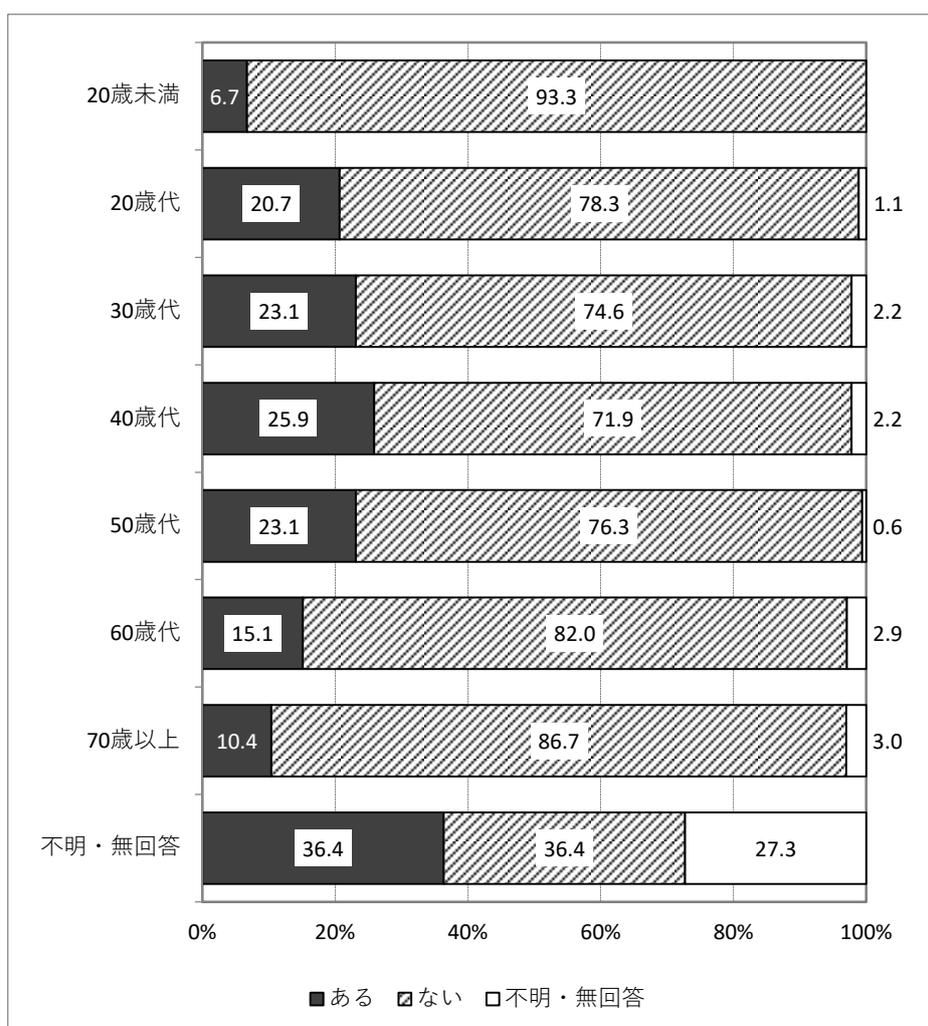
図表2-4



【年齢によるクロス集計】

年齢に関わらず「ない」の割合が70%台から80%台と高いです。一方、60歳代と70歳以上は、他の年齢に比べると「ある」の割合が低くなっています。(図表2-5)

図表2-5



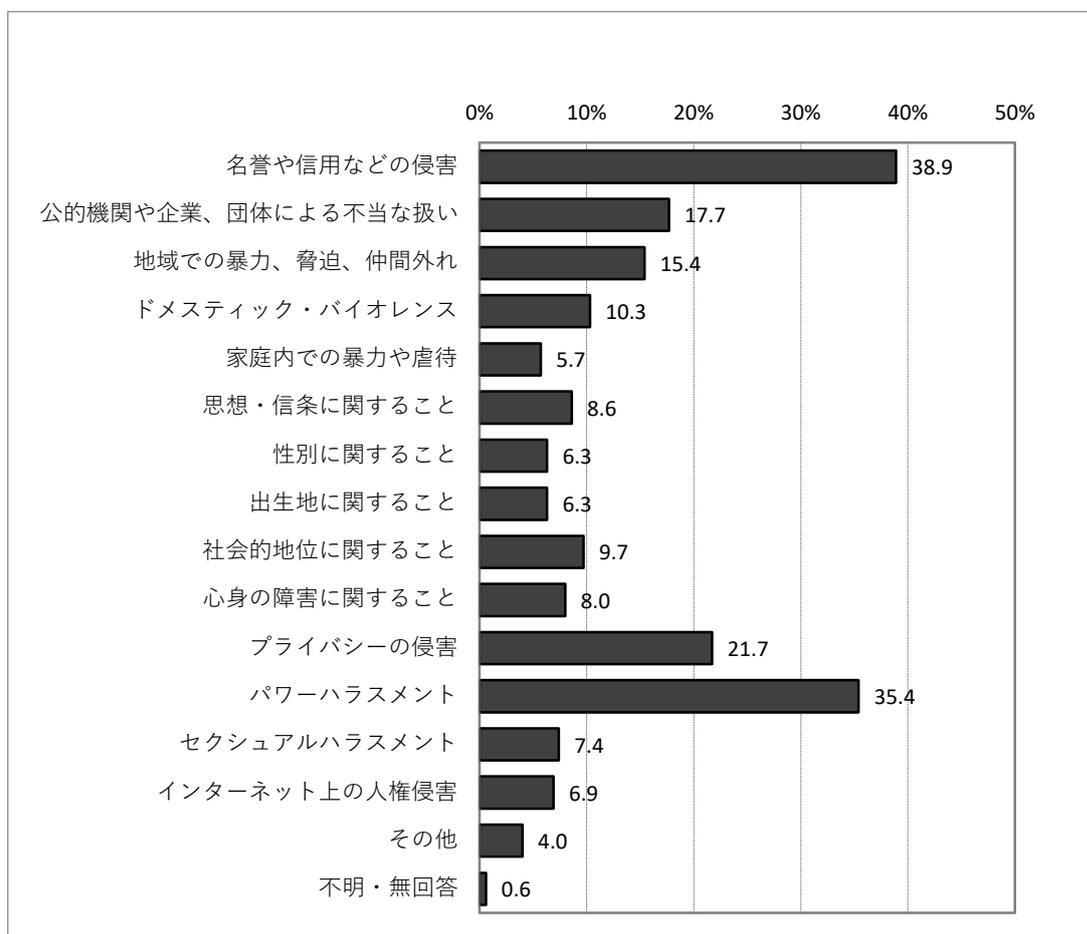
問3 侵害されたと感じた人権の内容

複数回答 (問3の対象者: 175)

クロス集計: 性別、年齢

過去5年間に人権が侵害されたと感じたことがある人が、侵害されたと感じた内容については、「名誉や信用などの侵害」が38.9%と最も高くなっています。また、次いで「パワーハラスメント」が35.4%、「プライバシーの侵害」が21.7%となっています。「その他」としては体形に関すること、子どもの発達に関すること、家庭や職場における人間関係に関するトラブルなどが挙げられています。(図表2-6)

図表2-6



【性別によるクロス集計】

性別に関わらず全体的な傾向は同じです。一方、「名誉や信用などの侵害」の割合は男性の方が高く、「社会的地位に関すること」は男性のみ上位5項目に入っています。また、「プライバシーの侵害」の割合は男性よりも女性の方が高いです。(図表2-7)

図表2-7

上段：度数 下段：%	合計	名誉や信用 などの侵害	公的機関や 企業、団体 による不当 な扱い	地域での暴 力、脅迫、 仲間外れ	ドメス ティック・ バイオレン ス	家庭内での 暴力や虐待	思想・信条 に関するこ と	性別に関す ること	出生地に関 すること
男性	67 100.0	32 47.8	12 17.9	9 13.4	3 4.5	4 6.0	3 4.5	1 1.5	5 7.5
女性	104 100.0	35 33.7	19 18.3	17 16.3	14 13.5	6 5.8	12 11.5	9 8.7	6 5.8
その他	1 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	1 100.0	- -
不明・無回答	3 100.0	1 33.3	- -	1 33.3	1 33.3	- -	- -	- -	- -

上段：度数 下段：%	社会的地位 に関するこ と	心身の障害 に関するこ と	プライバ シーの侵害	パワーハラ スメント	セクシュア ルハラスメ ント	インター ネット上の 人権侵害	その他	不明・無回 答
男性	9 13.4	2 3.0	11 16.4	25 37.3	3 4.5	5 7.5	4 6.0	- -
女性	7 6.7	12 11.5	26 25.0	37 35.6	10 9.6	6 5.8	3 2.9	1 1.0
その他	- -	- -	- -	- -	- -	1 100.0	- -	- -
不明・無回答	1 33.3	- -	1 33.3	- -	- -	- -	- -	- -

(注1) 網掛けは、各性別における上位5項目を示しています。

【年齢によるクロス集計】

「ドメスティック・バイオレンス」は20歳代と40歳代では上位5項目に入っていますが、他の年齢では入っていません。また、30歳代は他の年齢とは若干異なり、回答者が0の選択肢がなく、すべての選択肢の回答者が1以上となっています。(図表2-8)

図表2-8

上段：度数 下段：%	合計	名誉や信用 などの侵害	公的機関や 企業、団体 による不当 な扱い	地域での暴 力、脅迫、 仲間外れ	ドメス ティック・ バイオレン ス	家庭内での 暴力や虐待	思想・信条 に関するこ と	性別に関す ること	出生地に関 すること
20歳未満	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	19 100.0	7 36.8	2 10.5	1 5.3	3 15.8	2 10.5	-	2 10.5	2 10.5
30歳代	31 100.0	12 38.7	3 9.7	3 9.7	2 6.5	1 3.2	3 9.7	3 9.7	3 9.7
40歳代	35 100.0	12 34.3	9 25.7	3 8.6	5 14.3	3 8.6	3 8.6	3 8.6	-
50歳代	40 100.0	13 32.5	7 17.5	8 20.0	4 10.0	3 7.5	5 12.5	1 2.5	1 2.5
60歳代	31 100.0	13 41.9	7 22.6	6 19.4	2 6.5	-	3 9.7	1 3.2	4 12.9
70歳以上	14 100.0	8 57.1	3 21.4	5 35.7	2 14.3	1 7.1	1 7.1	1 7.1	1 7.1
不明・無回答	4 100.0	2 50.0	-	1 25.0	-	-	-	-	-

上段：度数 下段：%	社会的地位 に関するこ と	心身の障害 に関するこ と	プライバ シーの侵害	パワーハラ スメント	セクシュア ルハラスメ ント	インター ネット上の 人権侵害	その他	不明・無回 答
20歳未満	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	3 15.8	2 10.5	5 26.3	5 26.3	1 5.3	2 10.5	2 10.5	-
30歳代	3 9.7	3 9.7	8 25.8	12 38.7	7 22.6	3 9.7	1 3.2	-
40歳代	1 2.9	4 11.4	7 20.0	16 45.7	3 8.6	1 2.9	1 2.9	-
50歳代	2 5.0	1 2.5	6 15.0	21 52.5	-	3 7.5	2 5.0	1 2.5
60歳代	3 9.7	3 9.7	7 22.6	6 19.4	1 3.2	2 6.5	-	-
70歳以上	3 21.4	1 7.1	4 28.6	2 14.3	1 7.1	1 7.1	-	-
不明・無回答	2 50.0	-	1 25.0	-	-	-	1 25.0	-

(注1) 網掛けは、各年齢における上位5項目を示しています。

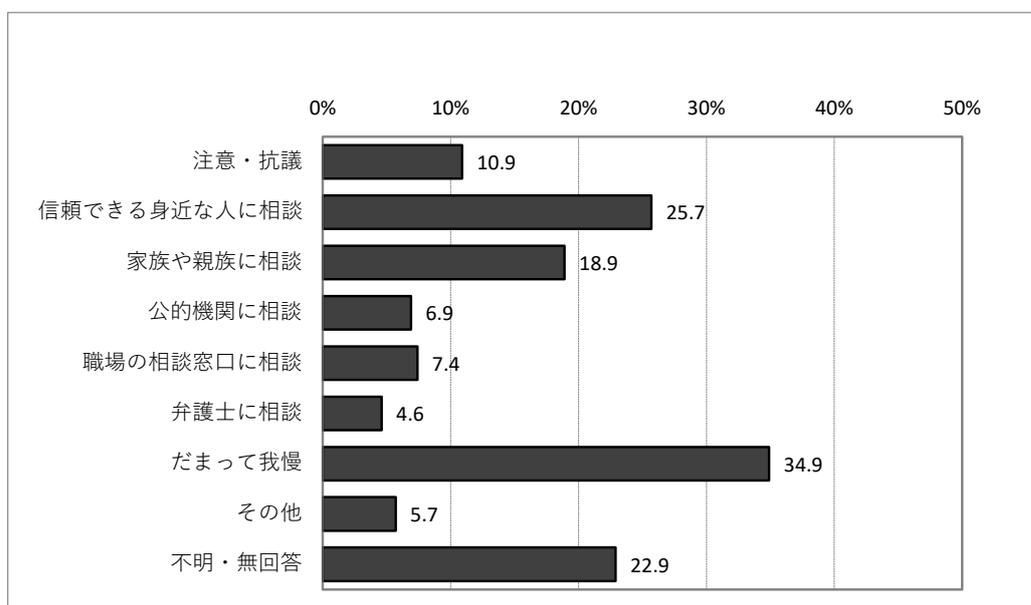
問4 人権が侵害されたと感じたときにとった対応

複数回答 (問4の対象者：175)

クロス集計：性別、年齢

過去5年間に人権が侵害されたと感じたことがある人が、侵害されたと感じたときにとった対応については、「だまって我慢」が34.9%と最も高く、次いで「信頼できる身近な人に相談」が25.7%となっています。ただし、この問については「不明・無回答」が22.9%と3番目に高いです。「その他」としてはインターネット上で相談した、加害者から離れたなどが挙げられています。(図表2-9)

図表2-9



【性別によるクロス集計】

性別に関わらず全体的な傾向は同じです。一方、「だまって我慢」の割合は女性よりも男性の方が高くなっています。(図表2-10)

図表2-10

上段：度数 下段：%	合計	注意・抗議	信頼できる 身近な人に 相談	家族や親族 に相談	公的機関に 相談	職場の相談 窓口に相談	弁護士に相 談	だまって我 慢	その他	不明・無回 答
男性	67 100.0	5 7.5	10 14.9	7 10.4	4 6.0	4 6.0	3 4.5	31 46.3	4 6.0	15 22.4
女性	104 100.0	14 13.5	34 32.7	26 25.0	8 7.7	9 8.7	5 4.8	28 26.9	6 5.8	24 23.1
その他	1 100.0	- -	1 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
不明・無回答	3 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	2 66.7	- -	1 33.3

(注1) 網掛けは、各性別における上位3項目を示しています。

【年齢によるクロス集計】

年齢に関わらず全体的な傾向は同じです。一方、30歳代では「注意・抗議」が、70歳代では「公的機関に相談」と「弁護士に相談」が上位3項目に入っていますが、他の年齢では入っていません(図表2-11)。

図表2-11

上段：度数 下段：%	合計	注意・抗議	信頼できる 身近な人に 相談	家族や親族 に相談	公的機関に 相談	職場の相談 窓口に相談	弁護士に相 談	だまって我 慢	その他	不明・無回 答
20歳未満	1 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	1 100.0
20歳代	19 100.0	1 5.3	7 36.8	3 15.8	- -	1 5.3	- -	7 36.8	- -	4 21.1
30歳代	31 100.0	5 16.1	4 12.9	8 25.8	4 12.9	2 6.5	2 6.5	10 32.3	1 3.2	8 25.8
40歳代	35 100.0	4 11.4	11 31.4	6 17.1	- -	4 11.4	2 5.7	13 37.1	3 8.6	7 20.0
50歳代	40 100.0	3 7.5	12 30.0	6 15.0	3 7.5	2 5.0	- -	12 30.0	4 10.0	12 30.0
60歳代	31 100.0	4 12.9	7 22.6	7 22.6	2 6.5	3 9.7	1 3.2	12 38.7	1 3.2	5 16.1
70歳以上	14 100.0	2 14.3	3 21.4	3 21.4	3 21.4	1 7.1	3 21.4	5 35.7	- -	3 21.4
不明・無回答	4 100.0	- -	1 25.0	- -	- -	- -	- -	2 50.0	1 25.0	- -

(注1) 網掛けは、各年齢における上位3項目を示しています。

3 人権問題一般（問5～問6）

3では、人権問題に関する相談窓口として知っているものを尋ねています。また、人権を取り巻く舞鶴市の状況についてどのように思うかを「そう思う」から「わからない」までの5段階で尋ねています。

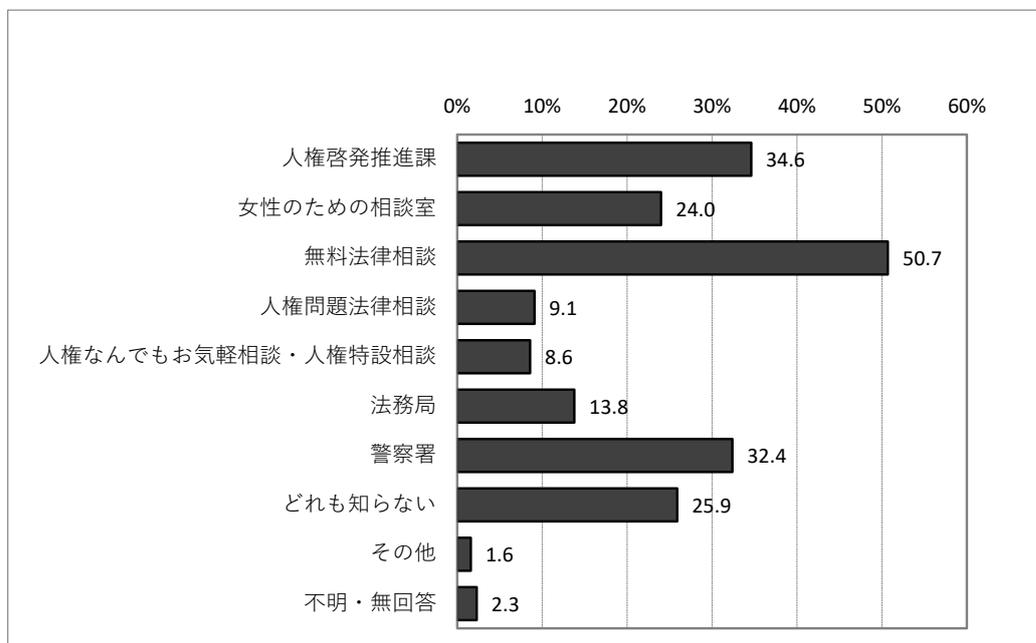
問5 人権問題に関する相談窓口として知っているもの

複数回答

クロス集計：性別、年齢

人権問題に関する相談窓口として知っているものについては、「無料法律相談」が50.7%と最も高く、次いで「人権啓発推進課」が34.6%、「警察署」が32.4%となっています。一方、「どれも知らない」は25.9%と4番目に高く、約4分の1を占めています。「その他」としては職場に設置されているもの、学校に設置されているもの、相談窓口の存在は知っているが具体的には知らない、相談しても効果がないと思うなどが挙げられています。（図表3-1）

図表3-1



【性別によるクロス集計】

性別に関わらず全体的な傾向は同じです。(図表3-2)

図表3-2

上段：度数 下段：%	合計	人権啓発推 進課	女性のため の相談室	無料法律相 談	人権問題法 律相談	人権なんでも お気軽相 談・人権特 設相談	法務局	警察署	どれも知ら ない	その他	不明・無回 答
男性	413 100.0	152 36.8	67 16.2	204 49.4	45 10.9	39 9.4	63 15.3	138 33.4	114 27.6	8 1.9	7 1.7
女性	476 100.0	157 33.0	146 30.7	248 52.1	37 7.8	38 8.0	59 12.4	151 31.7	116 24.4	6 1.3	11 2.3
その他	2 100.0	-	-	-	-	-	-	-	2 100.0	-	-
不明・無回答	9 100.0	2 22.2	3 33.3	4 44.4	-	-	2 22.2	3 33.3	1 11.1	-	3 33.3

(注1) 網掛けは、各性別における上位3項目を示しています。

【年齢によるクロス集計】

20歳未満から40歳代では「どれも知らない」が上位3項目に入っていますが、他の年齢では入っていません。また、「人権啓発推進課」は多くの年齢で上位3項目に入っていますが、20歳代と30歳代では入っていません。(図表3-3)

図表3-3

上段：度数 下段：%	合計	人権啓発推 進課	女性のため の相談室	無料法律相 談	人権問題法 律相談	人権なんでも お気軽相 談・人権特 設相談	法務局	警察署	どれも知ら ない	その他	不明・無回 答
20歳未満	15 100.0	5 33.3	1 6.7	7 46.7	1 6.7	1 6.7	1 6.7	5 33.3	6 40.0	-	-
20歳代	92 100.0	19 20.7	15 16.3	22 23.9	-	6 6.5	3 3.3	29 31.5	41 44.6	-	2 2.2
30歳代	134 100.0	32 23.9	30 22.4	56 41.8	3 2.2	6 4.5	16 11.9	38 28.4	49 36.6	2 1.5	1 0.7
40歳代	135 100.0	40 29.6	30 22.2	71 52.6	8 5.9	6 4.4	10 7.4	36 26.7	36 26.7	1 0.7	3 2.2
50歳代	173 100.0	65 37.6	38 22.0	88 50.9	15 8.7	10 5.8	15 8.7	55 31.8	48 27.7	1 0.6	3 1.7
60歳代	205 100.0	86 42.0	56 27.3	127 62.0	27 13.2	19 9.3	42 20.5	72 35.1	31 15.1	8 3.9	2 1.0
70歳以上	135 100.0	62 45.9	43 31.9	82 60.7	28 20.7	29 21.5	36 26.7	55 40.7	19 14.1	1 0.7	7 5.2
不明・無回答	11 100.0	2 18.2	3 27.3	3 27.3	-	-	1 9.1	2 18.2	3 27.3	1 9.1	3 27.3

(注1) 網掛けは、各年齢における上位3項目を示しています。

問6 (1)～(2) 人権を取り巻く舞鶴市の状況

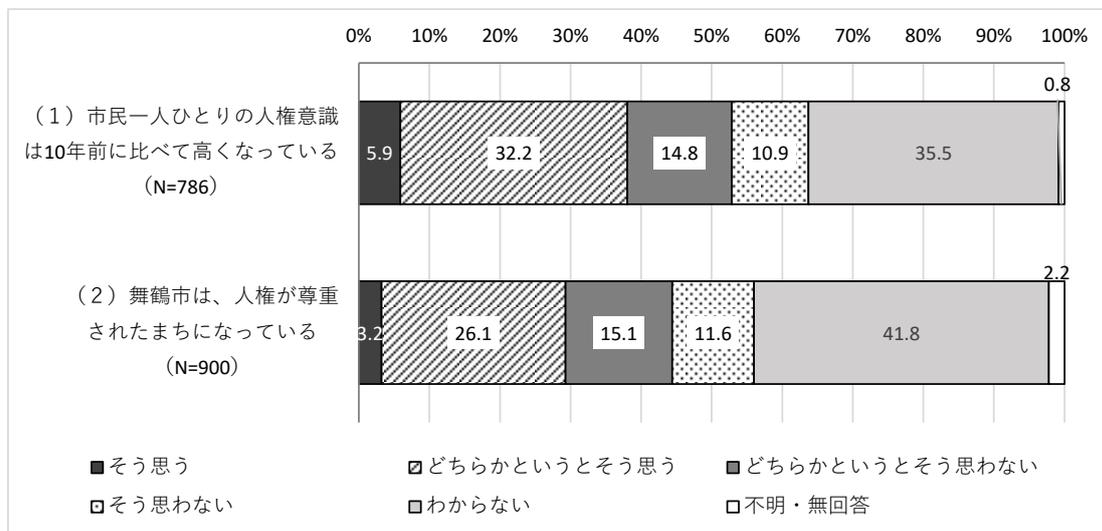
単数回答 ((1) : N=786, (2) : N=900)

クロス集計 : 性別、年齢、居住歴

単純集計の結果をまとめると図表3-4のようになります。人権を取り巻く舞鶴市の状況については、「(1)市民一人ひとりの人権意識は10年前に比べて高くなっている」と「(2)舞鶴市は、人権が尊重されたまちになっている」ともに「わからない」の割合が最も高いです。一方、「(1)市民一人ひとりの人権意識は10年前に比べて高くなっている」については、「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計が「どちらかというと思わない」と「そう思わない」の合計を12.4ポイント上回っています。また、「(2)舞鶴市は、人権が尊重されたまちになっている」については、「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計と、「どちらかというと思わない」と「そう思わない」の合計が同程度となっています。

なお、(1)については、問30において舞鶴市における居住歴が10年以上であると回答した人のみを対象として集計しているため、N=786となります。

図表3-4

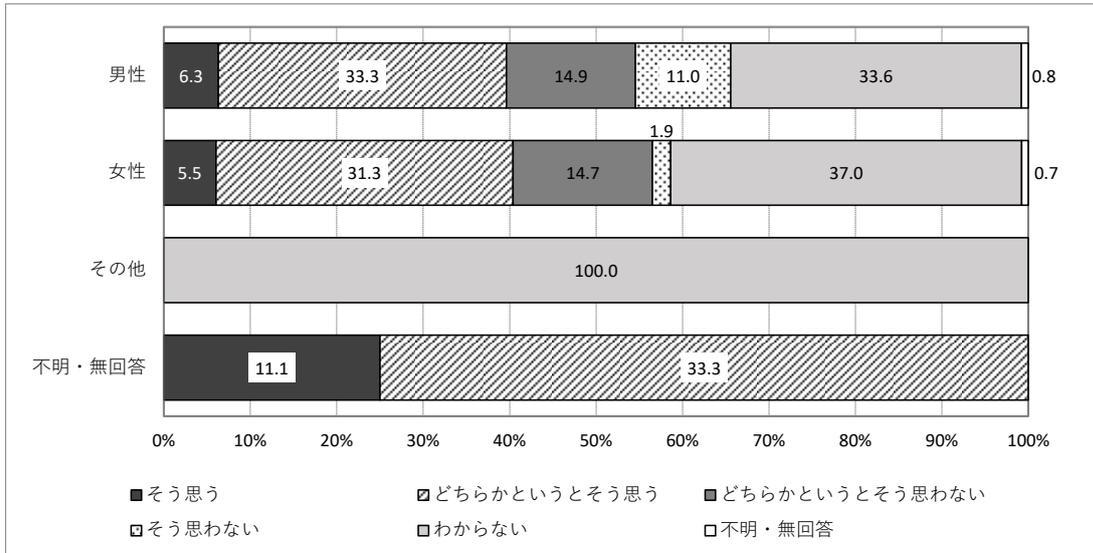


(1) 市民一人ひとりの人権意識は 10 年前に比べて高くなっている (N=786)

【性別によるクロス集計】

性別に関わらず「わからない」の割合が 35.0%前後と最も高いです。(図表 3 - 5)

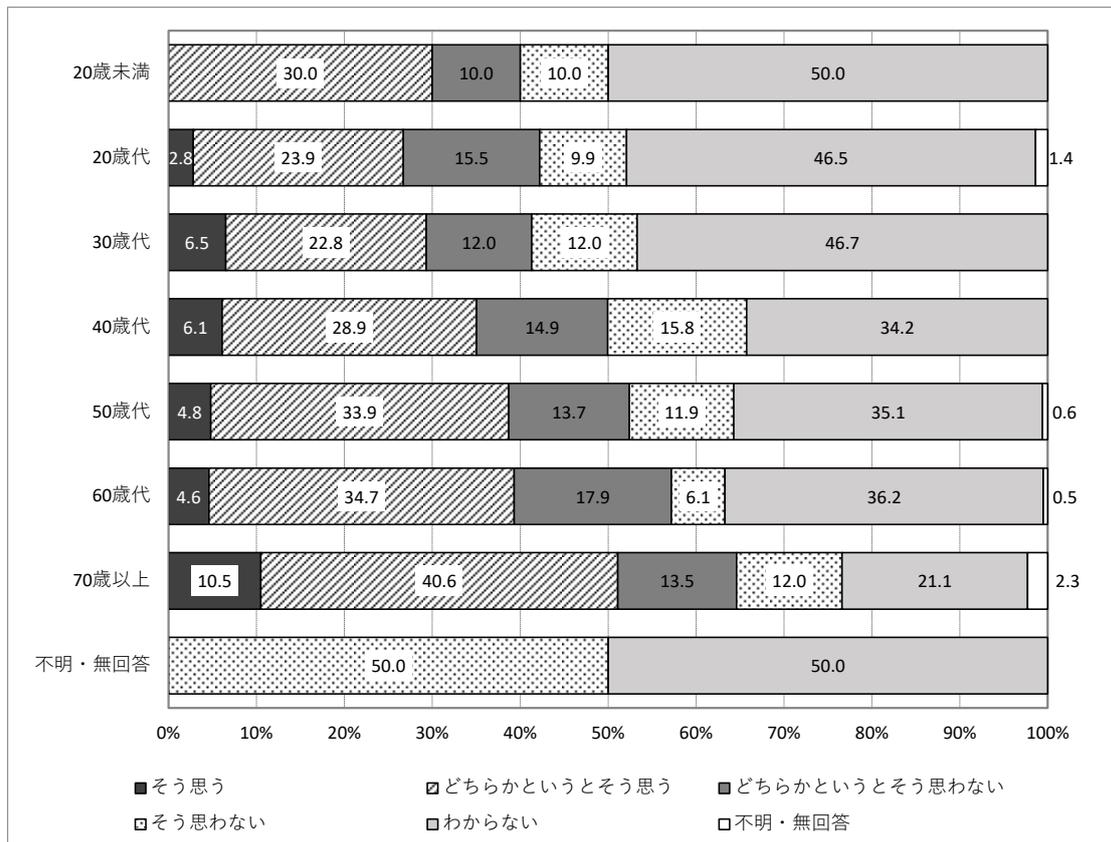
図表 3 - 5



【年齢によるクロス集計】

70歳以上では「どちらかというと思う」の割合が最も高いです。しかし、その他の年齢では「わからない」の割合が最も高いです。(図表3-6)

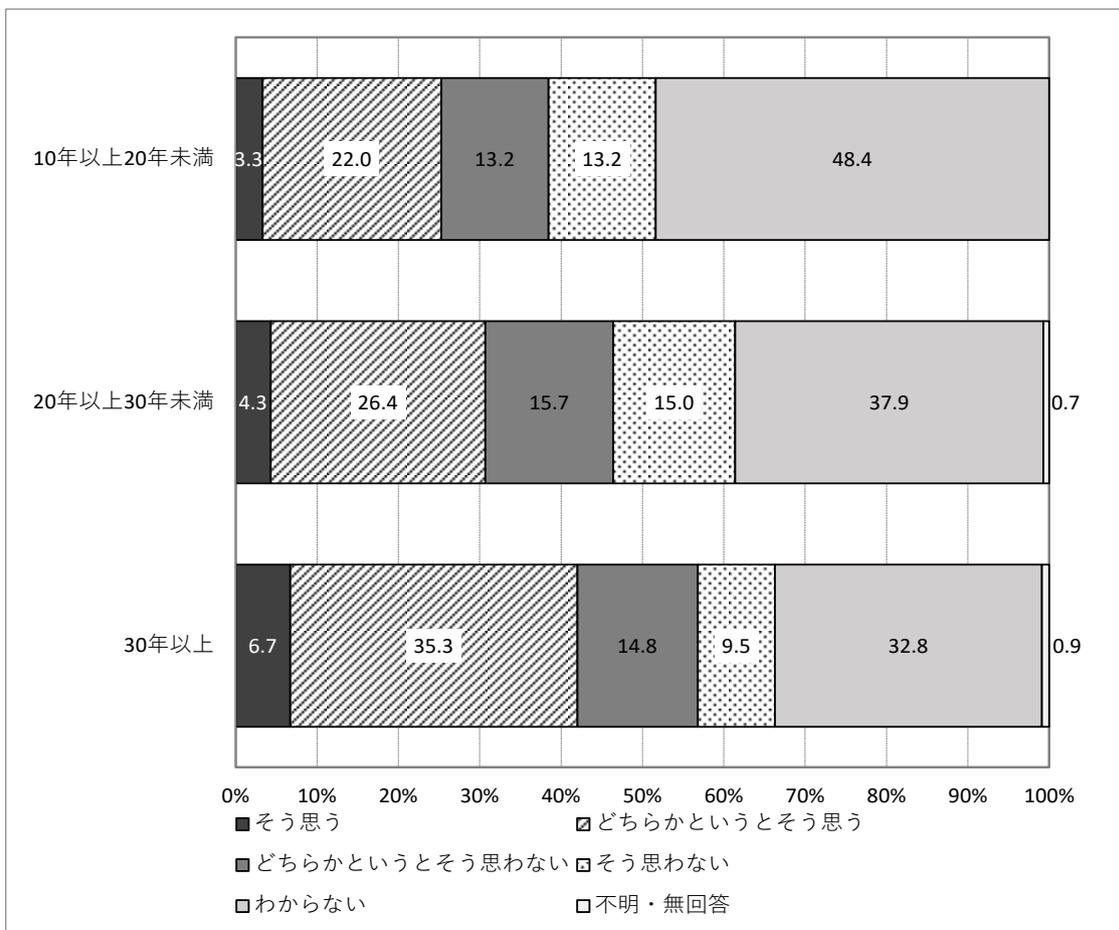
図表3-6



【居住歴によるクロス集計】

「30年以上」では「わからない」の割合が他に比べると低いです。また、「30年以上」では「そう思う」と「どちらかというと思う」の割合が他に比べると高いです。
 (図表3-7)

図表3-7

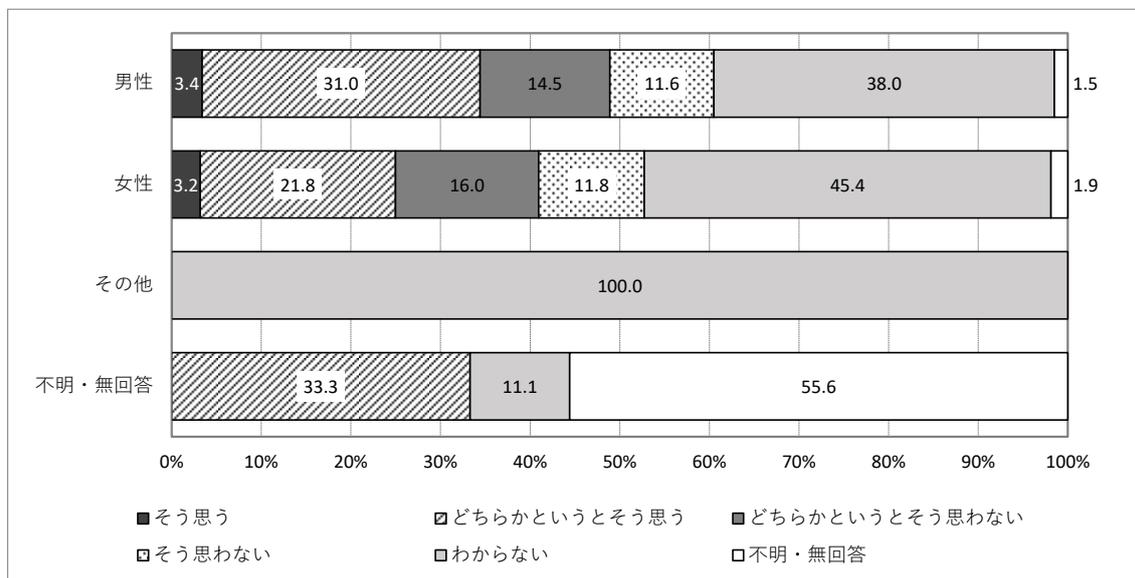


(2) 舞鶴市は、人権が尊重されたまちになっている (N=900)

【性別によるクロス集計】

性別に関わらず「わからない」の割合が最も高いです。一方、女性は「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計と、「どちらかというと思わない」と「そう思わない」の合計が概ね同程度ですが、後者の方が高い割合となっています。男性は「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計の方が高い割合となっています。(図表3-8)

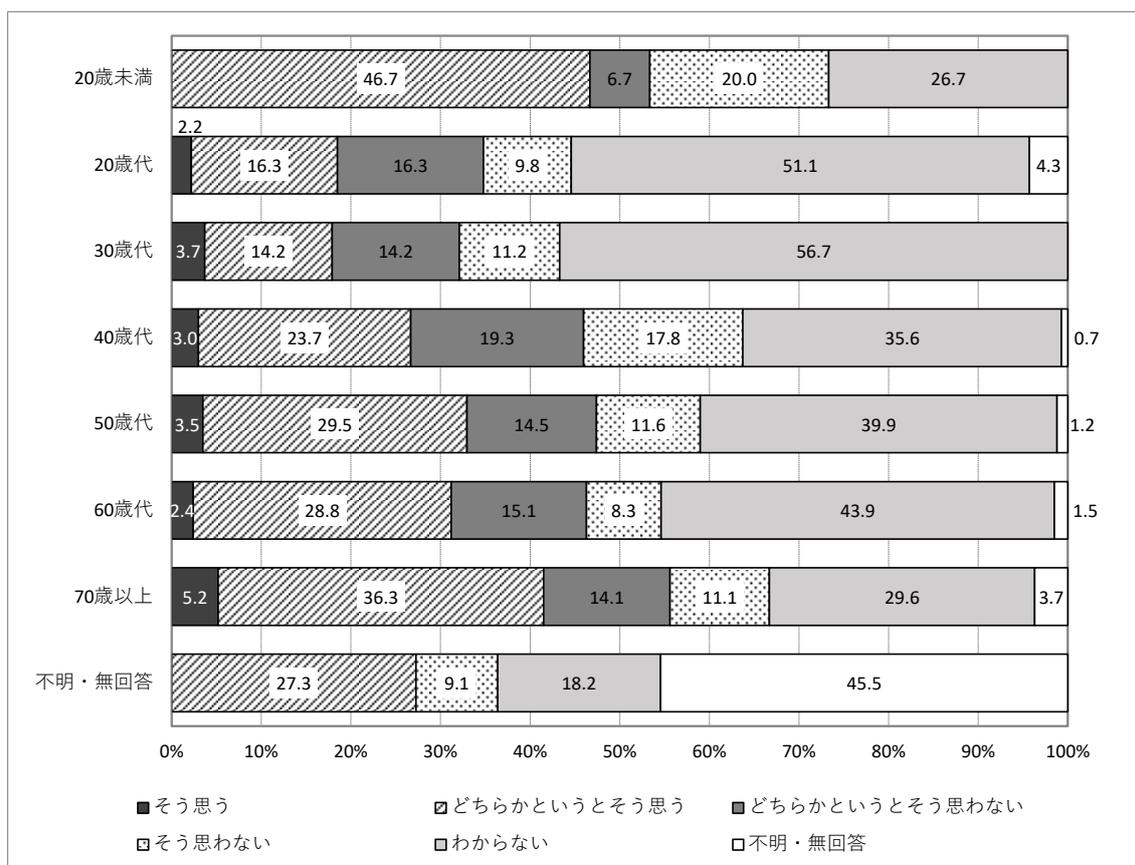
図表3-8



【年齢によるクロス集計】

70歳以上では「どちらかというと思う」の割合が最も高いですが、その他の年齢では「わからない」の割合が最も高いです。また、母数が少ないため単純な比較はできませんが、20歳未満も「どちらかというと思う」の割合が最も高いです。(図表3-9)

図表3-9



【居住歴によるクロス集計】

居住歴に関わらず「わからない」の割合が最も高いです。一方、顕著な傾向とは言えませんが、居住歴が長くなるほど「わからない」の割合は低下し、「そう思う」と「どちらかというと思う」の割合が上昇しています。(図表3-10)

図表3-10

